

| ピアノレッスンA | | | 野戸智美／他 17 名 | |
|--|--------------------------|------|-------------|----|
| 必修科目 | 実技 | 1 単位 | 1 年次 | 複数 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンA」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。 ・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。 ・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。 ・グレード6級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。 ・習熟度に合わせたグレードを受験することができる。 | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。</p> <p>第2回：バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。</p> <p>第3回：バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。</p> <p>第4回：バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。</p> <p>第5回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。</p> <p>第6回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。</p> <p>第7回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価。</p> <p>第8回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価の確認。</p> <p>第9回：バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第10回：バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。</p> <p>第11回：バイエルNo.80. 83. 85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第12回：バイエルNo.88. 89. 90。16分音符の早い動き 16分休符の意識。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第13回：バイエルNo.91. 93. 95。イ短調 6度の奏法。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第14回：バイエルNo.96. 97. 98。前打音装飾音符 3度の動き。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第15回：バイエルNo.80～No.98.の中より任意の2曲 童謡の中より任意の2曲</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事前事後の練習を基本とする。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー 25の練習曲」 全音楽譜出版社 「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実技試験(各級で取得した点数の平均を最終成績とする) 90% 受講状況 10% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>初回のガイダンスを良く理解し授業に臨むこと。</p> | | | | |

| ピアノレッスンB | | | 野戸智美／他 17 名 | |
|---|--------------------------|------|-------------|----|
| 必修科目 | 実技 | 1 単位 | 1 年次 | 複数 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンB」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。 ・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。 ・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。 ・グレード6級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。 ・グレード10級～1級はグレード試験を受験することができる。 | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：グレード設定の確認。 バイエルNo.99. 100. 101. 102。 複付点音符 ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第2回：バイエルNo.99. 100. 101. 102。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第3回：バイエルNo.103. 104. 105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。</p> <p>第4回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第5回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。</p> <p>第6回：バイエルNo.100. 102. 104. 105。 の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。</p> <p>第7回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」</p> <p>第8回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」</p> <p>第9回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」</p> <p>第10回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」</p> <p>第11回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」</p> <p>第12回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」</p> <p>第13回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」</p> <p>第14回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」</p> <p>第15回：ブルグミュラー 25の練習曲No.9 童謡 マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事前事後の練習を基本とする。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「全訳バイエルピアノ教則本」、 「ブルグミュラー 25の練習曲」 全音楽譜出版社 「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実技試験(各級で取得した点数の平均を最終成績とする) 90% 受講状況 10% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>ピアノレッスンAに準ずる。</p> | | | | |

| ピアノレッスンC | | | 野戸智美／他 17 名 | |
|---|--------------------------|------|-------------|----|
| 必修科目 | 実技 | 1 単位 | 1 年次 | 複数 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンC」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。 ・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。 ・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。 ・グレード6級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。 ・グレード10級～1級はグレード試験を受験することができる。 | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：グレード設定の確認。 バイエルNo.99. 100. 101. 102。 複付点音符 ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第2回：バイエルNo.99. 100. 101. 102。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第3回：バイエルNo.103. 104. 105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。</p> <p>第4回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第5回：バイエルNo.103. 104. 105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。</p> <p>第6回：バイエルNo.100. 102. 104. 105。 の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。</p> <p>第7回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」</p> <p>第8回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」</p> <p>第9回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」</p> <p>第10回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」</p> <p>第11回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」</p> <p>第12回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」</p> <p>第13回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」</p> <p>第14回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」</p> <p>第15回：ブルグミュラー 25の練習曲No.9 童謡 マーチの中から「バースデー・マーチ」「パレードマーチ」</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事前事後の練習を基本とする。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「全訳バイエルピアノ教則本」、 「ブルグミュラー 25の練習曲」 全音楽譜出版社 「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社 「童謡曲集」、「マーチ曲集」 聖ヶ丘保育専門学校</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90% 受講状況 10% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>ピアノレッスンAに準ずる。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|----------------------|------|--------|----|
| 英語 A | | | 加藤 磨理子 | |
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 二年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 外国語コミュニケーション | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「外国語」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり | | | |
| <p><授業概要></p> <p>テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像資料などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>グループワーク</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 インTRODakション 授業の進め方、自己紹介</p> <p>第2回 Unit1 保育の英会話への第一歩 “The Alphabet Song、</p> <p>第3回 Unit1 リスニングの基本、保育の英単語 “Finger Family、</p> <p>第4回 Unit2 挨拶の決まり “Bingo、</p> <p>第5回 Unit2 家庭調査票を読み取る “Mary Had a Little Lamb、</p> <p>第6回 Unit3 時刻の表し方 “Good Morning、</p> <p>第7回 Unit3 持ち物のお知らせと数 “Lazy Mary、</p> <p>第8回 Unit4 地図と場所 “Sunday,Monday,Tuesday、</p> <p>第9回 Unit4 道案内をしてみよう “Head,Shoulders,Knees and Clap!、</p> <p>第10回 Unit5 子供の遊び “Happy Birthday to you、</p> <p>第11回 Unit5 動作と遊びの英単語 “The Hokey-Pokey、</p> <p>第12回 Unit6 登園、今日の天気は？/グループワーク</p> <p>第13回 Unit6 降園、どんな一日だった？/グループワーク</p> <p>第14回 Unit6 自分のことを表現しよう ～したことある？/グループワーク</p> <p>第15回 グループ発表、試験とまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。</p> <p>また授業期間に計5回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実技60%、筆記試験（単語テスト）20%、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20%</p> | | | | |
| <p><備考></p> | | | | |

| | | | |
|--|----------------------|--------|-------|
| 英語 B | | 加藤 磨理子 | |
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 二次 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 外国語コミュニケーション | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「外国語」 | | |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり | | |
| <p><授業概要></p> <p>テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。授業の前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。</p> | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。</p> | | | |
| <p><授業方法></p> <p>グループワーク</p> | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 イントロダクション 授業概要。前期授業とのつながり。</p> <p>第 2 回 Unit7 保育者の一日 保育者の一日を振り返ろう “Twinkle, Twinkle, Little Star、</p> <p>第 3 回 Unit7 保育者の一日 0 歳、一歳児の保育 “London Bridge、</p> <p>第 4 回 Unit8 昼食の始まり、声かけをしよう “1,2,3,4,5 Clap Clap、</p> <p>第 5 回 Unit8 献立を覚えよう “The Wheels on the Bus、</p> <p>第 6 回 Unit9 トイレと排泄 “Old MacDonald Had a Farm、</p> <p>第 7 回 Unit9 連絡帳 “Row, Row, Row Your Boat、</p> <p>第 8 回 Unit10 子ども同士の喧嘩 “Where Is Thumbkin?、</p> <p>第 9 回 Unit10 ～してはいけません、～しましょう “Seven Steps、</p> <p>第 10 回 Unit11 怪我と病気①保護者へ報告 “Pat-a-Cake, Pat-a-Cake、</p> <p>第 11 回 Unit11 怪我と病気②けがや病気の英単語 “Are You Sleeping?、</p> <p>第 12 回 Unit12 電話でのやりとり／グループワーク</p> <p>第 13 回 Unit14 赤ちゃんへの声かけ／グループワーク</p> <p>第 14 回 Unit15 卒園／グループワーク</p> <p>第 15 回 グループ発表、試験とまとめ</p> | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。</p> <p>また授業期間に計 5 回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）</p> | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実技 60%、筆記試験（単語テスト）20%、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20%</p> | | | |
| <p><備考></p> | | | |

| 環境 | | | 岸 久美子 | |
|--|---|------|-------|----|
| 必要科目 | 演習 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の環境領域について理解する。また、幼児教育現場の環境や活動について学ぶ。</p> <p>グループディスカッションや発表を通して、子どもの発達や状況に合わせた環境に関する留意及び配慮の方法について学ぶ。そして、教育実習及び保育実習につなげる。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>幼児を取り巻く環境（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達における環境の重要性について説明できる。</p> <p>保育内容「環境」を基にした幼児教育の活動を使った指導案の作成ができるようにする。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義、グループディスカッション&発表、製作</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 ガイダンス、保育環境と領域「環境」</p> <p>第2回 「5領域」、保育内容「環境」における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」</p> <p>第3回 0歳児の発達と「環境」</p> <p>第4回 小テストⅠ、季節の折り紙①</p> <p>第5回 1歳以上3歳未満児の発達と「環境」①</p> <p>第6回 1歳以上3歳未満児の発達と「環境」② 事例研究</p> <p>第7回 3歳以上児の発達と環境①、小学校との接続</p> <p>第8回 3歳以上児の発達と環境② 事例研究</p> <p>第9回 小テストⅡ、季節の折り紙②</p> <p>第10回 自然環境と地域環境</p> <p>第11回 指導計画と環境</p> <p>第12回 季節と環境①</p> <p>第13回 季節と環境②</p> <p>第14回 季節の折り紙③</p> <p>第15回 試験及び期末まとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>各回の最後に、翌週の授業についてお知らせします。教科書の該当ページを読んでから、授業に出席してください。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>事例と演習でわかる保育内容「環境」 駒井美智子、横山文樹：編著 中央法規</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>平成29年告示「幼稚園教育要領」 文部科学省</p> <p>平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府</p> <p>平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省</p> <p>小櫃 智子ほか「幼稚園・保育園。認定こども園実習パーフェクトガイド」 わかば社</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末試験 50% 小テストⅠⅡ 20% 発表、提出物（レポート、製作）、授業の参加度 30%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 基礎音楽 | | | 野戸智美／高橋拓真 | |
|---|----------------------|-----|-----------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2単位 | 1年次 | 複数 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「基礎音楽」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育者として必要な演奏の技能や基本的な音楽の仕組み(楽典)を習得することで、豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現の基礎を習得し、音楽の規則や仕組み(楽典)を理解している。 ・音楽を表現することを通して、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。 ・豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を習得することができる。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>楽典(音楽の基礎)・手あそび・歌唱・リズム課題などを用いて、音楽活動や演奏に必要な知識、技能についての基礎を学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明 第2回：楽典① 校歌・生活の歌 手あそび 第3回：楽典① 季節の歌 手あそび 第4回：楽典② 季節の歌 手あそび 第5回：楽典② 季節の歌 第6回：楽典③ 季節の歌 第7回：楽典③ 季節の歌 リズム① 第8回：楽典④ 季節の歌 リズム② 第9回：楽典④ 子どもの歌① リズム③ 第10回：楽典⑤ 子どもの歌① リズム課題① 第11回：楽典⑤ 子どもの歌② リズム課題② 第12回：楽典⑥ 子どもの歌② リズム課題③ 第13回：楽典⑥ 子どもの歌② 第14回：まとめ (筆記試験対策) 第15回：学期末試験 (筆記) 振り返り授業</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事後学修としてノート又はプリントを整理し理解を深めること。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「子どものための音楽表現技術ー感性と実践力豊かな保育者へー」 今泉明美. 他編 萌文書林 「新・たのしい子どものうたあそびー現場で活かせる保育実践ー 第2版」 木村鈴代編 同文書院</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>学期末試験 60% 授業内課題 30% 受講状況 10%</p> <p>60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位認定する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>全ての授業への参加・所定の課題実施が、学修を完遂するための必須条件である。</p> | | | | |

| 基礎造形 | | | 羽田 顕佑 | |
|---|----------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「基礎造形」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>描く・作る等の造形行為を主とした表現活動の体験を通し、素材や用具の特性を理解すると共に、保育・教育の活動場面における援助の方法や留意点について知る。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育活動の造形行為にある一般的な造形要素（素材・用具を含む）を扱うことができる。 2. 子どもの発達等の状況をふまえた、素材や用具の提供や援助の留意点を考えることができる。 3. 様々な素材との触れ合いではたらく身体の諸感覚への認識をもつことができる。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>実技演習を中心として、要所に講義を交える。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 【講義】 ガイダンス 授業の趣旨、概要、求める姿勢、評価について</p> <p>第2回 【演習】 画用紙パペット作り①素材の質的变化を感じる</p> <p>第3回 【演習】 画用紙パペット作り②用具と描画材の工夫</p> <p>第4回 【演習】 クレヨン、クレパス①色の基本要素を学ぶ</p> <p>第5回 【演習】 クレヨン、クレパス②材質を活用した遊び</p> <p>第6回 【演習】 色鉛筆、マーカーペン 線描と色彩を用いた表現</p> <p>第7回 【演習】 マーカーペン 材質を活用した表現</p> <p>第8回 【演習】 絵の具①技法で遊ぶ</p> <p>第9回 【演習】 絵の具②用具を伴った表現</p> <p>第10回 【演習】 版画表現①版作り</p> <p>第11回 【演習】 版画表現②刷り</p> <p>第12回 【演習】 立体素材：小麦粉粘土 触覚の再発見と素材の呼応性</p> <p>第13回 【演習】 雑材の活用：紙コップによる工作 用具の取り扱いについて考える</p> <p>第14回 【演習】 雑材の活用：牛乳パックを用いた工作（制作の工程を捉える）</p> <p>第15回 【講義】 まとめ：素材との関わりと身体の発達／最終試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事後学修として、毎時の振り返り記述を実施・提出すること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。</p> <p>事前学修として、資料の参照を指示する場合がある。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>特になし。適宜必要な資料を配布する。</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>佐善圭(編著),『造形のじかん』,愛智出版,2013</p> <p>『幼稚園教育要領』平成29年3月告示,文部科学省</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月告示,内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>『保育所保育指針』平成29年3月告示,厚生労働省</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>1. 取り組みの姿(10%) 2. 成果物・記録(50%) 3. 最終試験(40%)</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>全ての演習への参加・所定の課題提出が、学修を完遂するための必要条件です。</p> <p>実技演習を行うにあたり、教員が示す活動に適した身支度と準備を整えること。</p> | | | | |

| 教育の方法と技術 | | | 齋藤 澄子 | |
|---|--|-----|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 2単位 | 2年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | — | | | |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教員 28年、学校管理職 6年、教育委員会指導主事 4年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>園児が成長していく過程で経験する教育・学習活動全般に見通しをもって子どもと関わるができるように、教育者としての学びを培い、教育方法についての理解を深め実践的な指導技術を身に付ける。また情報機器の効果的な活用法や視聴覚教材の作成方法等についても理解を深める。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児や児童の発達の特徴を踏まえた教育方法の理論が理解できる。 ・ 接続期の教育のあり方を理解し、幼保小連携の具体的な事例を通して指導技術を身に付ける。 ・ 情報機器の効果的な活用、ICT教育の活用についての知識を習得する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>テキストの内容に準じて講義を進める。本時の課題提示後、自力思考を経由してから講義を行う。必要に応じてグループワークを取り入れ協働的に学ぶ方法も採り入れる。授業の最後にはリフレクションタイムをとり、授業の振り返りを行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 教育の方法と技術の意義「方法を考える時に大切なこと①」（テキスト第1章）</p> <p>第3回 子どもの発達段階と教育「方法を考える時に大切なこと②」</p> <p>第4回 遊びや関わりを生かして教育する方法（テキスト第2章、4章）</p> <p>第5回 子どもが育つ環境を作る方法を探る（テキスト第3章）</p> <p>第6回 遊びや関わりを生かして教育する方法（テキスト第6章）</p> <p>第7回 気になる子どもへの指導・支援の方法（テキスト第8章）</p> <p>第8回 記録から方法を探る（テキスト第9章）</p> <p>第9回 連携という方法を探る（テキスト第10章）</p> <p>第10回 学びの連続性 接続期カリキュラム① 幼稚園におけるアプローチカリキュラムの実践例</p> <p>第11回 学びの連続性 接続期カリキュラム② 小学校におけるスタートカリキュラムの実践例</p> <p>第12回 ICTを活用した教育の方法と技術</p> <p>第13回 方法の探究 「保育者として人間として」（テキスト第11章）課題レポートの作成</p> <p>第14回 演習のまとめ ポスターセッション</p> <p>第15回 前期末テスト 最終講義</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前の準備学習としてテキストの指定されたところを読む ・ 授業後のノート整理、定着確認学習（クラスルームのスライドを活用する） | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>保育方法の実践的理解（久富陽子、梅田優子）萌文書林 2018年 第2版</p> | | | | |
| <p><教科書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>授業の振り返り学習とコメント（50%） 確認試験（50%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 教育課程総論 | | | 濱野 陽子 | |
|---|--|------|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎理念に関する科目「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育の計画と評価」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教諭（幼稚園 31 年）保育士（保育所 2 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育、幼児教育における教育課程の基本的知識を習得し、保育計画の作成について学ぶ。 ・就学前教育の独自性を理解し、子どもを主体とする保育計画の作成方法を習得する。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育、幼児教育の基本的な理念及び教育課程の意義と編成について理解する。 ② 子どもの姿、発達過程、保育内容をもとに実際に指導計画を作成することを通して、保育記録、指導計画、保育の実践、評価、指導計画の改善の過程を学び、子ども一人ひとりに対する適切な援助について考える。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>グループワーク、ディスカッション</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 保育における計画の意義「教育課程とは」</p> <p>第 2 回 保育におけるカリキュラムとは「物語る」ことの意味を探る</p> <p>第 3 回 保育の基本と計画①「環境を通じた保育」</p> <p>第 4 回 保育の基本と計画②「遊びを通じた保育」</p> <p>第 5 回 指導計画の作成の基本とその方法について①長期の指導計画</p> <p>第 6 回 指導計画の作成の基本とその方法について②短期の指導計画</p> <p>第 7 回 保育所、認定こども園の理解</p> <p>第 8 回 乳児の特徴と指導計画</p> <p>第 9 回 幼稚園の理解</p> <p>第 10 回 幼児の特徴と指導計画</p> <p>第 11 回 Web を使った指導計画</p> <p>第 12 回 保育の実践と評価①「計画、実践、評価、改善という一連の流れを理解する。」</p> <p>第 13 回 保育の実践と評価②「保育実践の振り返り ドキュメンテーションを通して」</p> <p>第 14 回 小学校との接続</p> <p>第 15 回 本授業の振り返り及びまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業ノートを整理し内容の確認を行い、前回の授業内容は次回までに理解する努力をし、不明点は受講生間での協同学習や自主学習で解消しておくこと。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>『教育課程・保育の計画と評価』-書いて学べる指導計画-岩崎淳子他 2018 年</p> <p>『教育・保育カリキュラム論』千葉武夫他 2019 年</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>① 期末試験（60%）②提出物（10%）③授業態度（30%）総合的に評価する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| | | | | |
|---|-------------------|------|------|----|
| 教育学 | | | 劉 博昊 | |
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「外国語、体育以外の科目」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>教育にまつわる歴史、思想、制度ないしは社会的機能について広く学ぶことにより、学校教育システムに対するより全面的な把握や認識を導き出し、教育事象をめぐって多面的に議論・思考できるように促す。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育について多面にわたり理解する。 ・社会における教育の働きを認識する。 ・学校教育の可能性と限界について、本講義での学びを活かしつつ、自分自身の視点から説明できる。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を中心とした講義 ・グループ・ディスカッション | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 「教える・学ぶ」とはどういうことなのか</p> <p>第2回 教育の歴史Ⅰ——西洋の古代と中世</p> <p>第3回 教育の歴史Ⅱ——西洋の近代</p> <p>第4回 教育の歴史Ⅲ——日本における教育の近代化</p> <p>第5回 教育の思想Ⅰ——近代初期の教育理論</p> <p>第6回 教育の思想Ⅱ——教育学の成立と新教育</p> <p>第7回 教育の思想Ⅲ——発達論</p> <p>第8回 教育の担い手としての教師</p> <p>第9回 教育の対象としての「子ども」</p> <p>第10回 教育の目的としての学力・能力</p> <p>第11回 教育と社会化——かくれたカリキュラムと学校的社会化論</p> <p>第12回 教育と社会——近代学校教育の功罪を考える</p> <p>第13回 教育の病理性——いじめと不登校</p> <p>第14回 教育実践例——山崎隆夫の実践記録を読む</p> <p>第15回 試験とまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業で、次回取り扱う予定のテーマと関連するキーワードや基礎概念、基本用語などを伝えるので、それらを指定した参考資料やHPを用いて、授業当日までに学習しておくこと。 ・配布資料を使い、当日の授業を振り返りながら論点をまとめておくこと。さらに、自分自身の興味関心に即して、授業内で紹介する関連文献を読むこと。 | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>特になし。毎回プリントを配布する。</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>『カリキュラム・マネジメントと教育課程』金馬国晴編、学文社、2019</p> <p>その他は必要に応じて講義中に紹介する。</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>試験 100 % で評価する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 教育原理 | | 亀田 良克 | | |
|--|---------------------------------------|-------|-----|----|
| 必修科目 | 講義 | 2単位 | 1年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎的理解に関する科目「教育の理念並びに教育にかんする歴史及び思想」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「教育原理」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | － | | | |
| <p><授業概要></p> <p>日本と諸外国の教育法規や制度を概観するとともに教育に関する歴史と思想をたどりながら教育についての理解を深めていく。また、教育現場の実践について、教育目的や内容、教育評価、学校教育、家庭教育などのさまざまな側面を学んでいく。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>「教育とは何か」について探求を深めるために教育の概念、理念、歴史、思想を知ることをねらいとする。また、講義で学んだことを基礎に、教育や保育の現場で自らの教育観を構築できる力と姿勢を身につけることを目的とする。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義を中心に進めていきますが、グループディスカッション、前後左右の受講者同志による討議も実施し、幅広い視点や知識の獲得も目指していきます。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション（教育の目的） 第2回 教育とは何か（教育、形成、教化） 第3回 乳幼児期の教育の特性 第4回 教育と子ども家庭福祉の関連性 第5回 学校の歴史 第6回 海外の教育史（古代ギリシアの教育思想） 第7回 海外の教育史（近代の教育思想） 第8回 海外の教育史（近代教育学の成立から新教育運動） 第9回 日本の教育史 第10回 家庭・地域社会と学校 第11回 社会教育と生涯学習社会 第12回 学び続ける教師 第13回 現代日本の教育課題（いじめ・不登校問題、子どもの貧困） 第14回 現代日本の教育課題（国際化・情報化とこれからの教育） 第15回 講義の振り返りと試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>各回の授業終了時に次回の学修内容を伝達するので、テキストの該当箇所を授業前に読んでから授業に臨むこと。また、授業内で学んだ重要なキーワードを中心に配布資料に目を通し、講義内容について各自で復習をしておくこと。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>森田健宏・田爪宏二 監修、島田和幸・高宮正貴 編著『よくわかる教職エクササイズ 教育原理』ミネルヴァ書房</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末試験（80%）と課題（含リフレクションシート）（20%）とで総合的に判断する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 教育行政 | | 太田 淳平 | | |
|--|---|-------|-----|----|
| 必修科目 | 講義 | 2単位 | 2年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎的理解に関する科目「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 学校独自の科目 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>日本の教育行政の仕組みや教育に関する法律について、その基本的な内容やその歴史について理解する。さらに、保育の現場と教育行政、および地域との連携のあり方について学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>教育関係法規や教育制度・保育制度について理解する。その上で、法律や制度によって保障されている子どもの権利や安全などについて理解する。さらに制度の中で、保育者としてどのような役割が期待されているのか理解を深め、自分の言葉で説明できるようにする。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義中心で行うが、ディスカッションなどの活動も行う予定である。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 教育制度・保育制度の歴史 第3回 子どもの権利条約 第4回 教育制度：教育基本法・学校教育法 第5回 保育制度：児童福祉法 第6回 就学前教育行政と幼稚園・保育所・認定こども園 第7回 教育委員会と現場 第8回 学校と地域の連携 第9回 学校・保育の安全 第10回 地方教育政治・行政 第11回 教育・保育士に関する行政 第12回 幼稚園教育要領を読む 第13回 保育所保育指針を読む 第14回 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む 第15回 まとめ&期末試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>テキスト及び配布資料をもとに予習することを薦める。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>青木栄一編『アクティベート教育学 02 教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房、2019年。</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>特になし。</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>①小レポート・小テスト（30%） ②期末試験（70%） ①と②で総合的に判断する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|--|-----|----------------|----|
| 教育実習 | | | 岸本圭子・甲田美香・太田淳平 | |
| 必修科目 | 演習 | 4単位 | 2年次 | 複数 |
| 教員養成課程の区分 | 教育実践に関する科目「教育実習」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 学校独自の科目 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 岸本：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 甲田：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 | | | |
| <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許取得のための実習として、幼稚園や認定こども園において観察・参加実習を行う。 ・幼稚園での実習を通じて、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の機能および教諭の職務について実践的に学ぶ。 ・教育現場での実践を通じて、教員としての資質能力、実践的指導力を体得する責任実習を行う。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、幼稚園・認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>幼稚園・認定こども園で、9月～原則一日8時間20日間実習を実施する。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園・認定こども園の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園・認定こども園の生活と一日の流れ (2) 幼稚園・認定こども園の役割と機能 2. 園児の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 園児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 教育内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 園児の心身状態に応じた対応 (3) 園児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての教諭の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教諭の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 教諭の役割と職業倫理 | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>理論と実践の具体的な相互関係を学び、保育者としてのあり方を学ぶ。また、日々の実習を振り返りながら、実習の内容を日誌に記録し、それをもとに次の日の準備や指導案作成・準備をする。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 編</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」文部科学省 「保育所保育指針解説（平成30年3月）」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数 の3分の2以上に出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。</p> | | | | |

| 教育実習事前事後指導（幼稚園） | | | 岸本圭子・甲田美香・太田淳平 | |
|--|---------------------------------------|------|----------------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年次 | 複数 |
| 教員養成課程の区分 | 教育実践に関する科目「教育実習」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 学校独自の科目 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 岸本：幼稚園教諭(幼稚園・20 年)、甲田：幼稚園教諭(幼稚園・16 年) | | | |
| <p><授業概要></p> <p>事前指導では、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、実習を円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし振り返り、自己評価を行い、今後の課題を明確にする。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>1 実習の基本的理解 2 幼稚園教育の理解と保育の方法 3 幼稚園教育の実践的課題を学ぶ 4 保育者に望まれる資質と実習生の心得</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>テキストやプリントに加え、視覚教材、事例やグループワークなどを通して、体験的実践的に知識や技術を身につける。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション（振り返りながら、教育実習に向けて目的を持つ） 第2回：幼稚園の一日の流れ（VTRを見ながら幼稚園の一日の流れを把握しながらレポートに書く） 第3回：実習の手引き解説（教育実習の目的・ねらい） 第4回：実習の手引き解説（実習の目的やねらいを達成するために実習生として、何を心掛けるべきか） 第5回：身上書の書き方（実習をさせていただくという気持ちで記入する） 第6回：オリエンテーションを受けるに当たり（実習生としての心構え） 第7回：実習日誌の書き方①（「本日の実習課題」の立て方について） 第8回：実習日誌の書き方②（園の概要の書き方、注意すること） 第9回：実習日誌の書き方③（「一日の流れ」…子どもの活動・保育者の援助の流れについて） 第10回：実習日誌の書き方④（「一日の流れ」…気づきや考察の考え方） 第11回：指導案の作成①（部分実習と責任実習の違い、内容の考え方） 第12回：指導案の作成②（ねらいや環境構成の考え方） 第13回：指導案の作成③（実際に日案の立案をする） 第14回：実習直前の指導（実習生としての心構えの確認） 第15回：事後指導（振り返りと課題確認）</p> <p>定期試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>教材研究や提出書類の準備などを行う。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘教育福祉専門学校 編</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」文部科学省 「保育所保育指針解説（平成30年3月）」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>提出物 80%・実習前後の報告 20%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。</p> | | | | |

| 教育心理学 | | | 黒石 憲洋 | |
|--|--|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎的理解に関する科目「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 学校独自の科目 | | | |
| 担当教員の実務経験 | - | | | |
| <p><授業概要></p> <p>教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習についての歴史的な考え方について理解する。 2. 学習を支える動機づけに関する理論を理解し、子どもの動機づけを高める働きかけや介入の仕方を検討する視点を習得する。 3. 行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方を理解する。 4. 教育における評価のあり方について理解し、その影響について検討する視点を習得する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと 第2回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境 第3回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ） 第4回：学習理論②：認知主義 第5回：学習理論③：状況主義 第6回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論 第7回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論 第8回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論 第9回：パーソナリティ理論①：類型論的理解 第10回：パーソナリティ理論②：特性論的理解 第11回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達 第12回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ 第13回：教育における評価②：教育における認知的バイアス 第14回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング 第15回：試験および全体のまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。</p> | | | | |
| <p><参考資料></p> <p>市川伸一 (1995). 学習と教育の心理学 岩波書店 レイブ・ウェンガー (1993). 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書 スティベック (1990). やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>授業内で実施する期末試験において、合格点（100 点満点中、60 点以上）を満たせば、単位を認定する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 教育相談論 A | | | 殿塚 貴史 | |
|---|--|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | — | | | |
| 担当教員の実務経験 | 東京都世田谷区の中学校での心理相談員・メンタルクリニックでの心理アセスメント | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育現場の日常を客観的に見て、知るところから始まり、徐々に現代の子どもがかかえる悩みごと、困りごとに対してどのように把握し、介入していけるか、具体的にはカウンセリングの技術について講義と演習で学んでいく。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>学校における教育相談の意義と理論を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 ・受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義を中心に行うが適宜ディスカッションやグループワーク、体験学習等も行う予定。板書した内容は必ずノートにとること。その内容がそのまま試験に出ます。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、教育相談概論 とは何か 子どもとはどんな存在か 第 2 回：心理学の分類と学校心理学 第 3 回： 精神医学と臨床心理学 第 4 回：臨床心理学の基礎理論 1 精神力動理論 第 5 回：臨床心理学の基礎理論 2 認知行動理論 第 6 回：臨床心理学の基礎理論 3 人間性心理学 第 7 回：臨床心理学の基礎理論 4 コミュニティアプローチ・家族療法 第 8 回：アセスメントとは何か 第 9 回：アセスメントの方法 1・行動観察法 第 1 0 回：アセスメントの方法 2・面接法 第 1 1 回：アセスメントの方法 3・心理検査法 質問紙・作業検査・投影法 第 1 2 回：不応・精神疾患・発達障害の違い 第 1 3 回：心理社会的ストレスとは何か 第 1 4 回：パーソナリティと病前性格 第 1 5 回：期末試験とまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業時間内で学習した心理アセスメントの方法(面接法や検査法など)に関して家族や友人に対して実践してみることで対象者の理解の仕方を習得できるようにしていく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>教育相談 第 2 版 (Next 教科書シリーズ) 弘文堂 津川律子 山口義枝 北村世都 編</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>特になし。</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>授業中の態度や積極性 40% 期末試験 60%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 教育相談論 B | | | 殿塚 貴史 | |
|---|--|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | — | | | |
| 担当教員の実務経験 | 東京都世田谷区の中学校での心理相談員 メンタルクリニックでの心理アセスメント | | | |
| <p><授業概要></p> <p>子どもの特徴をどう捉えてみると良いのかを考え、次いで、子どもたちを取り囲む背景、広義の教育相談としてどのように子どもたちを「相談支援」という形で守って見届けていけるかを養う理解力を深めていく。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>授業の到達目標及びテーマ ・いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 ・教育相談の基礎となるコミュニティアプローチの内容と方法を理解している。 ・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義を中心に行うが適宜ディスカッションやグループワーク、体験学習等も行う予定。板書した内容は必ずノートにとること。その内容がそのまま試験に出ます。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション、学校心理学とコミュニティアプローチ 第2回：ロジャーズの3つの態度要件とカウンセリングマインド 第3回：子ども理解1 子どもの自己表現能力 自己開示と自己呈示 第4回：子ども理解2 乳幼児期の発達的特徴 第5回：子どもと環境1 虐待と関連機関 第6回：子どもと環境2 外傷体験・喪失体験 第7回：子どもと環境3 保護者が育児の困る時 第8回：子どもと環境4 保育者自身のメンタルケア 第9回：園で教育相談を行なうときに気をつけること 第10回：園から学校への橋渡しで気をつけること 第11回：通常の幼児教育の業務と教育相談との違い 第12回：コミュニティアプローチの方法1 第13回：コミュニティアプローチの方法2 第14回：コミュニティアプローチの方法3 第15回 期末試験とまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業時間内で学習した心理アセスメントの方法(面接法や検査法など)に関して家族や友人に対して実践してみることで対象者の理解の仕方を習得できるようにしていく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>教育相談 第2版 (Next 教科書シリーズ) 弘文堂 津川律子 山口義枝 北村世都 編</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>特になし。</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>授業中の態度や積極性 40% 期末試験 60%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 教職概論 | | 太田 淳平 | |
|---|--|-------|---------|
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 1 年次 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎的理解に関する科目「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）」 | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「保育者論」 | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | |
| <p><授業概要></p> <p>本授業では、教職および保育者の社会における位置付けや、役割、資質能力、協働などについて学ぶ。社会の変化とともに、教職への期待や眼差しも大きく変化することを理解してもらう。</p> | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>教職・保育者の役割や意義、求められている資質能力について理解を深める。さらに保育者の専門性とはどのようなものかを理解する。それにとどまらず、自分自身がどのような教育者・保育者を理想とするのか考え、言語化できるようになる。</p> | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義中心で行うが、ディスカッションなどの活動も行う予定である。</p> | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 教職とは何か・保育者とは何か（役割） 第3回 教職のための制度 第4回 教職・保育者の歴史の変遷 第5回 幼稚園教諭・保育士の1日 第6回 子どもの内面や発達を理解する 第7回 子どもの遊びを援助する 第8回 個と集団を生かす 第9回 家庭や地域との連携・支援 第10回 多様な子どもの理解と支援 第11回 教材などを通して学びを深める 第12回 成長する保育者と同僚性 第13回 保育の専門性 第14回 保育者として子どもにどう向き合うか 第15回 まとめ&期末試験</p> | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>テキスト及び配布資料をもとに予習することを薦める。</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編『アクティベート保育学 02 保育者論』ミネルヴァ書房、2019年。</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>①佐久間亜紀、佐伯胖編著『アクティベート教育学2 現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。 ②吉田武男編著『MINERVA はじめて学ぶ教職2 教職論』ミネルヴァ書房、2019年。</p> | | | |
| <p><成績評価></p> <p>①小レポート・小テスト（30%） ②期末試験（70%） ①と②で総合的に判断する。</p> | | | |
| <p><備考></p> <p>テキスト以外に、〈教科書・参考資料〉①『アクティベート教育学2 現代の教師論』の内容も踏まえた授業展開を予定しているため、参照することを勧める。</p> | | | |

| 健康 | | 蛭原 正貴 | | |
|--|--|-------|------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>この科目では、保育所保育指針に示される「健康」領域に関して理解を深めるとともに、基本的な生活習慣や運動遊び、疾病の予防や安全管理などの子どもが健康に育つために必要な知識について解説を行う。特に、運動不足の解消やアレルギー対応などの現代的課題については、最新のデータを基に情報機器等を用いながら授業を進める。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育保育要領について理解し、健康の定義や健康課題について説明できる。 2. 乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。 3. 乳幼児期の安全な生活と怪我や病気の予防について説明できる。 4. 危険に関しリスクとハザードの違いを含む安全管理を理解している。 5. 乳幼児期の日常生活における身体活動の在り方を説明できる。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>討議(ディスカッション・ディベート)、グループワーク、調べ学習</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 領域「健康」についての理解(「健康」の意義と現代的課題の把握) 健康の意義について理解し、現代の健康問題について把握する。 予習:「健康」の意義について調べておく(30分)。 復習:健康の意義、現代の課題についてまとめる(30分)。</p> <p>第2回 領域「健康」のねらい及び内容 発達段階別の領域「健康」のねらい、内容について学ぶ。 予習:領域「健康」とはどのような領域なのか調べておく(30分)。 復習:発達段階別の「健康」のねらい、内容についてまとめる(30分)。</p> <p>第3回 乳幼児期の身体的発達 乳幼児期の身体的発達の特徴についてデータを基に理解する。 予習:乳幼児期の発達曲線について調べておく(30分)。 復習:乳幼児期の発達の特徴について、データの読み取りを含めてまとめる(30分)。</p> <p>第4回 乳幼児期の基本的な生活習慣 基本的な生活習慣の発達の特徴について学ぶ。 予習:基本的な生活習慣とは何なのか調べておく(30分)。 復習:基本的な生活習慣の発達の特徴についてまとめる(30分)。</p> <p>第5回 乳幼児期の「食を営む力」 乳幼児期の食育の意義について学ぶ。 予習:幼児期の食育とは何か調べておく(30分)。 復習:食育について理解し、実践的取り組みについてまとめる(30分)。</p> <p>第6回 乳幼児期における運動の特徴及び周囲との関わり 具体的な乳幼児期の遊びについて理解し、周囲との関わりを含めた遊びの内容について学ぶ。 予習:乳幼児期における運動の特徴について調べておく(30分)。 復習:授業内容を振り返り、乳幼児期の具体的な遊び例についてまとめる(30分)。</p> <p>第7回 遊びとしての運動の重要性 運動遊びの有効性、重要性について学ぶ。 予習:運動遊びの有効性について調べておく(30分)。 復習:運動遊びの重要性についてまとめる(30分)。</p> <p>第8回 乳幼児の心の安定 乳幼児期の精神的発達について理解し、その関わり方について学ぶ。 予習:乳幼児期の精神的発達について調べる(30分)。 復習:授業内容を振り返りながら、具体的な関わり方について学ぶ(30分)。</p> | | | | |

第9回 慢性疾患を含む疾病の予防及び対応

乳幼児期の疾病やケガの特徴を理解し、対応について学ぶ。

予習：乳幼児期に発病しやすい疾病について調べておく（30分）。

復習：乳幼児期注意すべき疾病とその対応についてまとめる（30分）。

第10回 保育環境と安全

安全な保育環境について、具体例を見ながら学ぶ。

予習：安全な保育環境はどのようなものなのか調べ、考えておく（30分）。

復習：安全な保育環境を構築するための方法、考え方についてまとめる（30分）。

第11回 領域「健康」の変遷及び小学校との連携

領域「健康」の変遷から小学校の連携について時系列に学ぶ。

予習：領域「健康」がつけられた背景について調べておく（30分）。

復習：これからの保育者が求められることについて考え、まとめる（30分）。

第12回 運動遊びを含む身体活動の在り方について

現代における身体活動の在り方について、日常生活を例に学ぶ。

予習：現在の自分自身の運動習慣について振り返っておく（30分）。

復習：これから必要となっている身体活動についてまとめる（30分）。

第13回 健康を育む指導案の作成

これまでの授業内容を踏まえた指導案の作成を行う。

予習：これまでの授業内容を振り返っておく（30分）。

復習：指導案作成において注すべき点をまとめる（30分）。

第14回 指導案の発表及び共有

作成した指導案を発表し、共有する。

予習：指導案を作成しておく（30分）。

復習：質疑応答で指摘された点をまとめ、改善点を考える（30分）。

第15回 まとめ

これまでに学んだことをレポートにまとめ、振り返りを行う。

予習：14回までに学んだことを振り返っておく（30分）。

復習：レポートにまとめた内容の活用方法について考える（30分）。

<授業時間外学修>

上記<授業計画欄>参照。

<テキスト>

特になし。

<参考書・参考資料>

幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)

<成績評価>

幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を踏まえた「健康」の内容に関する小レポートを毎時間実施：60%

健康的なからだづくりを促進するための保育のありかたを問うレポート：20%

運動遊びに関する指導案の作成：20%

<備考>

レポートの提出や連絡事項については、Googleclassroom を使用します。

第1回の授業でも説明をしますが、可能であれば、Googleclassroom のアプリをダウンロードしておいてください。(スマートフォンをお持ちでない方は初回の授業時にご相談ください。)

| 言葉 | | | 西山 国江 | |
|---|--|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士・幼稚園教諭養成校に教員として勤務 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深める。また、幼児の言葉の発達に即した言葉遊びや児童文化財を適宜活用する技術を体験的に学び、実践力を養う。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達にともなう児童文化財の意義を理解する。 ・言葉遊びや児童文化財を活用し、実践力を養う。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材を使用する。 ・グループワークや発表を通して、理解を深め技術を修得する。 | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション/言葉について</p> <p>第2回 言葉の獲得・仕組みについて</p> <p>第3回 日本語の特徴について</p> <p>第4回 言葉遊び/カード作り</p> <p>第5回 児童文化財①[おはなし]</p> <p>第6回 児童文化財②[紙芝居]</p> <p>第7回 児童文化財③[絵本]</p> <p>第8回 児童文化財④[絵本と子ども]/児童文化財の振り返り</p> <p>第9回 領域「言葉」</p> <p>第10回 子どもの発達と言葉</p> <p>第11回 前言語期のコミュニケーションと保育</p> <p>第12回 話し言葉の機能と発達</p> <p>第13回 書き言葉の発達と保育/言葉の振り返り</p> <p>第14回 言葉に関する諸問題</p> <p>第15回 言葉を育む保育の構想・現代社会と言葉</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業内容を確認し、理解の定着を図る。課題を行う。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」 馬見塚昭久/小倉直子[編著] ミネルヴァ書房</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>試験 30% 課題 50% レポート 10% 作品 10%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| 国語 | | | 蠣崎 尚美 | |
|---|--------------------------|-----|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2単位 | 3年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | — | | | |
| 担当教員の実務経験 | 宮城県教育委員会 中学校「国語」教員二種旧免許状 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>前半ではテキスト『保育になるための国語表現』を利用して、保育者として必要最低限の会話表現、読み書きのルール、一般教養を身に着ける。また、文章表現を学び、「セルフヒストリー」を記述する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>この授業では保育の現場に携わるにあたって、領域それぞれの学問的背景や基盤となる考え方を学ぶ。具体的には日本語で書かれた文章の読解、表現方法を正確に理解する。また保育者が幼児と関わる上で重要な要素となる「読み聞かせ」「おはなし」のねらい、文化的背景を理解し、実践的なアプローチ方法を学ぶ。そして、保育者になるにあたり、今までの自分を振り返り、自己覚知を図る。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>本科目では、講義による解説を中心とする。授業毎に所定の課題に取り組み、それに基づいた授業となる。毎回の授業ではリアクションペーパーを記入し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用することを求める。グループワークも行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回： 授業概要、保育者としてよい国語表現をするために 第2回： 会話表現①話し方 第3回： 会話表現②敬語 演習問題① 第4回： 保育現場での話し方、子どもへの言葉かけ 第5回： 就職面接、履歴書の書き方、演習問題⑩自己分析 第6回： 保護者対応、電話／繰り返し言葉 第7回： 演習①日本昔話について 第8回： 正しく書こう ペンの持ち方、演習問題③平仮名、片仮名 第9回： 文章の基本を学ぶ 第10回： 小論文の書き方 朝日新聞コラム「天声人語」演習問題⑫ 第11回： 演習②児童文学について 第12回： 手紙とメールのマナー 演習問題⑬⑭ 第13回： 連絡帳の書き方 演習問題⑮ 第14回： セルフヒストリーを書く 第15回： 国語を学んで・レポートを書く</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>【事後学習】 授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。演習問題を提出する。</p> <p>【事前学習】 教科書該当箇所を読んでおく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『保育になるための国語表現』（改訂版第5刷）田上貞一郎 著 萌文書林 2022年</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>課題提出（50%）、レポート（30%）授業態度（20%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>第1回目のオリエンテーションには必ず出席すること。</p> | | | | |

| 子どもの健康と安全 | | | 遠藤 由美子 | |
|--|--|------|--------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「子どもの健康と安全」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 小児科（1 年）救急救命センター（3 年）相模原市保健予防課子どもの健診（17 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>健康状態の観察、子どもの身体測定、生理機能の測定、精神・運動発達機能の評価と記録の方法等演習を通して理解する。また、災害時の対応や対策、緊急時の対応等の方法等子どもが成長する過程で保険対応として必要な対応の技術を習得する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>保育における保健的な視点からから、保育環境や援助について知識を深める。また、各種ガイドラインを用いた、安全対策を保育の視点で理解する。さらに、子どもの健康や安全の管理について組織的取り組みや保健活動の計画や評価方法について具体的に理解する。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>配布された資料に従い、演習を行いながら学習を進める。授業により、ICT を活用し質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 子どもの健康と保育環境</p> <p>第2回 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理（課題 1）</p> <p>第3回 保育における衛生管理（課題 2）</p> <p>第4回 保育における事故防止と安全対策、危機管理（課題 3）</p> <p>第5回 保育における災害への備え（液体ミルクや使い捨て哺乳瓶）（課題 4）</p> <p>第6回 体調不良及び障害発生時の応急処置と対応（課題 5）</p> <p>第7回 救急処置及び救急蘇生法（AEDの使用法）（課題 6）</p> <p>第8回 感染症の集団発生の予防と発生後の対応（ノロウイルスの対応・手袋のはめ方・外し方おむつの捨て方）（課題 7）</p> <p>第9回 保育における保健的対応（課題 8）</p> <p>第10回 3歳児未満児への対応（子どもの扱い方）（課題 9）</p> <p>第11回 個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患・アレルギー性疾患）（課題 10）</p> <p>第12回 障害のある子どもへの対応（歯磨きの仕方）（課題 11）</p> <p>第13回 職員間の連携・協働と組織的取り組み（家庭・専門機関・地域の関係機関）（課題 12）</p> <p>第14回 保育における保健活動の計画及び評価（成果物）</p> <p>第15回 心豊かな子どもに育てるために（成果物）</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業1～15において家庭学習（課題への取り組み：60分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出）</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>保育者養成シリーズ 子どもの健康と安全 林邦雄・谷田貝公昭監修 株式会社 一藝社</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>保育所保育指針解説平成29年3月告示 厚生労働省</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>学生に対する評価：①提出課題合計96点（課題1～12が各8点、ミニテスト含む）②成果物評価 4点</p> <p>*授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として評価対称としない。ただし、提出物の受理は行う。</p> <p>*課題は、毎授業で基本課される。</p> <p>① ②を合計で100点。80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| 子どもの食と栄養 | | | 松本 辰子 | |
|---|--------------------------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 2 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の対象の理解に関する科目「子どもの食と栄養」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士（病院 7 年・小学校 23 年） 栄養教諭（小学校 3 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>・子どもの心身共に健康な体づくりのために、保育者として必要な食と栄養の知識・調理技術を習得し、自らも望ましい食生活を実践できるようにする。また、保育における食育の重要性を理解し、保護者や子どもに指導ができる専門性を養う。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>・健康な生活を基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ・保育における食育の意義・目的、基本的考え方について理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義・グループディスカッション・調理実習・調べ学習・プレゼンテーション</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回：①オリエンテーション（演習計画・評価法） ②子どもの健康と食生活の意義 第 2 回：③栄養に関する基本的知識〔栄養の基本的知識〕 ④栄養素の種類と機能〔たんぱく質・脂質〕 第 3 回：⑤栄養素の種類と機能〔炭水化物・ビタミン〕 ⑥栄養素の種類と機能〔ミネラル・水・フィトケミカル〕 第 4 回：⑦発育・発達の基本的知識 ⑧子どもの消化器官・排泄機能の発達の基本的知識 第 5 回：⑨献立作成と調理の基本 ⑩食の衛生と安全〔食中毒・食品表示・食品添加物〕 第 6 回：⑪胎児期の栄養と食生活 ⑫妊娠期の栄養を考慮した献立作成 第 7 回：⑬乳児期（乳汁期・離乳期）の栄養 ⑭幼児期の栄養と食事支援 第 8 回：⑮調乳・離乳食実習 ⑯捕食としてのおやつ・調理実習 第 9 回：⑰学童期・思春期の栄養と食生活 ⑱生涯発達と食生活 第 10 回：⑲児童福祉施設における食事と栄養 ⑳疾病及び体調不良のこどもへの対応 第 11 回：㉑食物アレルギーの基本的知識 ㉒保育所における食物アレルギーの対応 第 12 回：㉓食育の基本と内容 ㉔食育だより〔指導案〕の作成 第 13 回：㉕食育だよりの作成 ㉖食育だよりの完成 第 14 回：㉗食育だよりの発表・講評 ㉘食育だよりの発表・講評 第 15 回：㉙食育だよりの発表・講評 ㉚筆記試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>予習：予め教科書を読み、関心を高めておく 復習：振り返りシート等を用いて学習内容の理解を深める その他：日々の食生活を振り返り改善に努める 子どもの食に関する報道等に関心を持つ</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>・イラスト「子どもの食と栄養」（東京教学社）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省） ・楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長 雇児保発第 0329001 号平成 16 年 3 月 29 日） ・「保育現場の食育計画（アレルギー対応）」（栄養セントラル学院）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>・筆記試験60% ・レポート等の提出物 40%（特に実習は欠席しないこと）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| 子どもの保健 | | | 遠藤 由美子 | |
|--|---|-----|--------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2単位 | 3年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の対象の理解に関する科目「子どもの保健」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 小児科（1年）救急救命センター（3年）相模原市保健予防課子どもの健診（17年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育における子どもの保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。更に、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天的疾患、感染症、事故の予測と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、子供の保健に関する制度と現状・課題について考える。以上について学び、資格取得に必要な知識や技術の習得を目的とする。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動を行うために、健康な子どもの健やかな成長を基礎として、観察の力を医療的視点で磨くための知識を習得する。また、母子保健制度、児童福祉法等の制度によって成長が支えられていることを理解する。更に心を育むことの重要性を自己の成長の経験を活用しつつ、保育者としての役割を理解する。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>配布された資料に従い、学習を進める。必要に応じて、質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義（生命の保持と母性・父性の育成、健康とは）（課題 1）</p> <p>第2回 健康の概念と健康指標（課題 2）</p> <p>第3回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題（成果物）</p> <p>第4回 地域における保健活動と子ども虐待防止（課題 3）</p> <p>第5回 身体発育及び運動機能の発達と保健（課題 4）</p> <p>第6回 生理機能の発達と保健 生理機能の発達①（呼吸器、循環器、免疫、消化器） 生理機能の発達②（尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能） 生理機能の発達③（睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動）（課題 5）</p> <p>第7回 健康状態把握及び心身の不調等の早期発見の重要性（課題 6）</p> <p>第8回 発育・発達の把握と健康診断（課題 7）</p> <p>第9回 保護者との情報共有（課題 8）</p> <p>第10回 子どもの主な疾病の特徴①先天異常（課題 9）</p> <p>第11回 子どもの主な疾病の特徴②循環器系・呼吸器系・血液・消化器（課題 10）</p> <p>第12回 子どもの主な疾病の特徴③アレルギー・泌尿器系・内分泌代謝（課題 11）</p> <p>第13回 子どもの主な疾病の特徴④脳・運動器・耳・眼・皮膚・歯の病気（課題 12）</p> <p>第14回 子どもの主な疾病の特徴⑤感染症（成果物）</p> <p>第15回 予防接種</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業1～15において家庭学習（課題への取り組み：60分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出）</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>子どもの保健 谷田貝公昭監修、吉田直哉・糸井志津乃編著</p> | | | | |
| <p><教科書・参考資料></p> <p>保育所保育指針解説平成29年3月告示 厚生労働省</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>学生に対する評価：①提出課題96点（課題1～12が各8点、ミニテスト含む）②成果物評価4点</p> <p>*授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として評価対象とならない。提出は受け付ける。</p> <p>*課題は、毎授業で基本課される。</p> <p>① ②を合計で100点。80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 子ども家庭支援の心理学 | | | 黒石 憲洋 | |
|---|-----------------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 1 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の対象の理解に関する科目「子ども家庭支援の心理学」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>主な内容としては、①生涯発達の理論に基づいて各発達段階における発達課題と心理社会的危機について学修する。②家族・家庭の機能に関する社会学的理論に基づいてさまざまな家族・家庭の在り方について検討する。③家族・家庭の問題について因果的な理解を越えてシステム論的な視点からとらえ直しをおこなう。④子どものウェル・ビーイングに影響を与える家族・家庭を含めた社会環境要因を考察する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、子ども家庭支援の心理学で学ぶこと 第2回：発達とは：生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機 第3回：生涯発達 (1)：乳幼児期から幼児期にかけての発達 第4回：生涯発達 (2)：児童期から思春期・青年期にかけての発達 第5回：生涯発達 (3)：成人期から高齢期にかけての発達 第6回：道徳性の発達 第7回：対人関係の発達 第8回： 集団機能の社会学的理解 第9回： 家族・家庭の在り方を考える 第10回：システム論とは 第11回：家族・家庭のシステム論的理解 第12回：家族・家庭の発達 第13回：子どもの生活・生育環境としての家族・家庭：虐待・ネグレクト等 第14回：子どものウェル・ビーイングを考える 第15回：まとめと定期試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。</p> | | | | |
| <p><参考資料></p> <p>吉川悟(編) (1999). システム論からみた学校臨床 金剛出版</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>授業内で実施する期末試験において、合格点 (100 点満点中、60 点以上) を満たせば、単位を認定する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 子ども家庭支援論 | | | 坂吉 美代 | |
|---|----------------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭支援論」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所・23 年） 園長（保育所・16 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育の専門性を生かした支援、保育士として求められる基本的態度を知り子ども家庭支援を捉える。支援の体制（社会資源、支援施策）多様な支援の展開と関係機関との連携等、具体的な事例を通して保育の視点を考え論じる。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭環境の変化、子育てをめぐる様々な問題から、子育て家庭に対する支援の意義、目的を理解する。 ・ 保育の専門性を生かした家庭支援、保育士に求められる基本的態度を理解して説明できる。 ・ 支援の体制（国、自治体の施策、社会資源）について学び、保育士の担う支援の理解を深める。 ・ 状況に応じた多様な支援の展開、支援内容によって専門機関との連携の重要性を理解する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義中心であるが、地域の子育て支援について調べ レポートを作成し発表する。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回： オリエンテーション（授業の目標、15 回の流れ、評価） 子ども家庭支援の意義と役割 第 2 回： 子ども家庭支援の必要性 子ども、家庭をめぐる環境変化と現状 第 3 回： 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 ① 保育の専門性を生かした実践の支援 第 4 回： 〃 ② 子どもの育ちを保護者と共有する具体的な支援 ③ 保護者の子育てを自ら実践する支援 第 5 回： 〃 ④ 保育者に求められる基本的態度 第 6 回： 子育て家庭に対する支援の体制 ①（社会資源） 第 7 回： 〃 ②（子育て支援施策） 第 8 回： 地域の社会資源、子育て支援施策について ① 発表 第 9 回： 〃 ② 発表 第 10 回： 家庭の状況に応じた支援（多様な支援の展開と関係機関との連携）① 支援の内容と対象 第 11 回： 〃 ② 保護者との相互理解、信頼関係 第 12 回： 〃 ③ 状況に応じた個別支援（障害や発達上の課題がある子ども、特別な配慮を必要とする家庭） 第 13 回： 〃 ④ 要保護児童家庭に対する支援（不適切な養育家庭、虐待を疑われる場合） 第 14 回： 〃 ⑤ 地域の子育て家庭への支援 子ども家庭支援に関する現状と課題 第 15 回： 授業の振り返りと期末試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>レポート作成（地域の社会資源や子育て支援について調べる）</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>『最新 保育士養成講座 第 10 巻 子ども家庭支援』全国社会福祉協議会 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末試験（50%） レポート提出（45%）発表（5%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| 子ども家庭福祉 | | | 蠣崎 尚美 | |
|---|---|------|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭福祉」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員 14 年（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3 年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>現代の子どもの育つ環境の実態について子ども家庭福祉の視点から具体的に学ぶことを通し、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や子どもの権利擁護、保育者の専門性と役割について理解を深める。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭福祉についての基本的理念について学ぶ。 2 子ども家庭福祉施策及びとりまく諸状況の変化について学ぶ。 3 子ども家庭福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学ぶ | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>本科目では、講義による解説を中心とし、関連する視聴教材も取り入れる。授業毎に所定の課題に取り組み、それに基づいた授業となる。毎回の授業ではリアクションペーパーを記入し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用することを求める。グループワーク、調べ学習を行うこともある。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回：子ども家庭福祉の理念と概念 第 2 回：子どもの権利保障 第 3 回：子ども家庭福祉の歴史の変遷、諸外国の動向 第 4 回：子ども家庭福祉の展開 第 5 回：児童福祉法の成立と改正 第 6 回：子ども家庭福祉等機関・地域活動 第 7 回：子ども家庭福祉サービス・養護 第 8 回：子ども家庭福祉サービス・障害 第 9 回：子ども家庭福祉行政の仕組み 第 10 回：母子保健と子どもの健全育成 第 11 回：多様な保育へのニーズ 第 12 回：子ども福祉サービスの実際／障害 第 13 回：子ども福祉サービスの実際／ひとり親 第 14 回：子ども福祉サービスの実際／里親 第 15 回：ふりかえりと試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>【事後学習】授業内容を読み返し、疑問や課題を整理する。 【次回事前学習】事前に Google クラウドから提示する授業資料を読み、提示された課題に取り組む。教科書を読み、理解しておく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>保育と子ども家庭福祉第 2 版 櫻井奈津子 編 株式会社みらい</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>レポート 50%、リアクションペーパー 30%、授業態度 20%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>第 1 回目のオリエンテーションには必ず出席すること。</p> | | | | |

| | | | | |
|---|-----------------------|------|------|----|
| 子育て支援 | | | 小林 根 | |
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「子育て支援」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 社会福祉士 3 年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>授業回数ごとに割り当てられたテーマに沿ってテキスト内の実践事例を読み解き、子育て支援に必要な基本姿勢や専門的知識・技術を学ぶ。パワーポイントを活用し、授業を進めながらワークシートを完成させ、授業後半で提出してもらう。ワークシートの内容を評価し、学習の進捗状況を確認する。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回： 子育て支援とは 第 2 回： 子育て支援の意義 第 3 回： 子育て支援の基本的価値・倫理 第 4 回： 子育て支援の基本姿勢 第 5 回： 子育て支援の基本的技術 第 6 回： 園内・園外との連携と社会資源 第 7 回： 記録・評価・研修 第 8 回： 日常会話を活用した子育て支援 第 9 回： 文章を活用した子育て支援 第 10 回： 行事などを活用した子育て支援 第 11 回： 環境を活用した子育て支援 第 12 回： 地域子育て支援拠点における支援 第 13 回： 入所施設における子育て支援 第 14 回： 通所施設における子育て支援 第 15 回： まとめと今後の課題（テスト）</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業後半に次回授業の予告を行い、テキストの実践事例について次回までに読んでおくよう指導する。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>子育て支援（15 のストーリーで学ぶワークブック）萌文書林</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>各授業毎の演習ワークシート提出 70%、テスト 30%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 社会的養護 A | | | 蠣崎 尚美 | |
|--|---|------|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「社会的養護 I」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員 14 年（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3 年 | | | |
| <授業概要> | | | | |
| 本科目では、児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえ、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について、理解することを目指す。 | | | | |
| <授業の到達目標> | | | | |
| 1. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、説明することができる。 2. 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。 3. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解し、説明することができる。 4. 「社会的養育ビジョン」について理解し、説明することができる。 | | | | |
| <授業方法> | | | | |
| 本科目は、講義を中心に行い、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について学習する。また、子どもを支援する現場の課題について、グループワークや調べ学習を取り入れ授業を行う。 | | | | |
| <授業計画> | | | | |
| 第 1 回：オリエンテーション 社会的養護の理念と概念 第 2 回：現代社会と児童福祉、社会的養護の基本原則 第 3 回：権利主体としての児童（子どもの人権擁護） 第 4 回：社会的養護の歴史 第 5 回：児童養護の体系（施設、里親、グループホーム等） 第 6 回：社会的養護の制度と法体系 第 7 回：施設養護と家庭養護 第 8 回：施設養護の基本原則 子どもの最善の利益 第 9 回：施設養護の実際 施設の日常生活、自立支援 ビデオ視聴 第 10 回：施設養護の実際 治療的・支援的援助 ビデオ視聴 第 11 回：社会的養護に関わる専門職（児童相談所、関係機関、家庭等） 第 12 回：被措置等の虐待防止 第 13 回：社会的養護における保育士等の倫理と責務 第 14 回：社会的養護と地域福祉 ビデオ視聴 第 15 回：社会的養護の目指す方向 | | | | |
| <授業時間外学修> | | | | |
| 【事後学習】 授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。 | | | | |
| 【事前学習】 教科書該当箇所を読み、考察を行う。小レポートを提出する。 | | | | |
| <テキスト> | | | | |
| 図解で学ぶ保育 社会的養護 I（第 2 版） 原田句哉・杉山宗尚 編著 萌文書林 | | | | |
| <参考書・参考資料> | | | | |
| 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） | | | | |
| <成績評価> | | | | |
| レポート 50%、リアクションペーパー 30%、授業態度 20% | | | | |
| <備考> | | | | |
| 第 1 回目のオリエンテーションには必ず出席すること。 | | | | |

| 社会的養護B | | | 河野 暢明 | |
|---|---|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「社会的養護 I」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 障害福祉施設支援員 3 年 障害福祉相談員 1 2 年 障害福祉施設管理職 5 年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>本科目は、社会的養護 A の内容を理解した上で、具体的に社会的養護を担う施設のあり方や施設養護全体について理解する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設養護及び他の社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、作成を行なうことができる。 3. 社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する 4. 社会的養護における子ども虐待の防止と家族支援について理解する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、発表、ロールプレイ、参加型学習</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、アイスブレイク、子どもの権利擁護</p> <p>第 2 回：社会的養護における子どもの理解</p> <p>第 3 回：社会的養護の内容①日常生活支援</p> <p>第 4 回：社会的養護の内容②心理的支援</p> <p>第 5 回：社会的養護の内容③自立支援</p> <p>第 6 回：施設養護の生活特性および実際：乳児院等、障害児施設等</p> <p>第 7 回：家庭養護の生活特性および実際</p> <p>第 8 回：アセスメントと個別支援計画の作成</p> <p>第 9 回：ソーシャルワーク演習（音楽を用いたソーシャルワーク）</p> <p>第 1 0 回：記録及び自己評価</p> <p>第 1 1 回：社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実際</p> <p>第 1 2 回：社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実際</p> <p>第 1 3 回：社会的養護におけるソーシャルワーク</p> <p>第 1 4 回：社会的養護に家庭支援</p> <p>第 1 5 回：今後の社会的養護の課題と展望、試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学習></p> <p>【事前学習】 わからない専門用語を事前に調べておく。</p> <p>【事後学習】 授業を通して、何が理解できたか、自分ならどう活かしていけるかをまとめる。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>新基本保育シリーズ 社会的養護 II （中央法規）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>保育所保育指針（平成 2 9 年 3 月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 2 9 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>新基本保育シリーズ「社会的養護 II」監修 公益財団法人児童育成協会 2022 年 中央法規</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>小テスト（4 0 %）、期末試験（6 0 %）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>演習科目ですので積極的に取り組んでください。</p> | | | | |

| 社会福祉 | | | 亀田 良克 | |
|--|----------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「社会福祉」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の社会福祉の基礎を学ぶ。また、子ども家庭支援の視点を身につけるとともに、相談援助の理論や方法等の学習を通して福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援する態度や行動の基礎を培う。さらに、学んだ知識や技術を土台に、さまざまな社会福祉が抱える問題や課題について探求する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義、歴史ならびに子ども家庭支援の視点について理解する。 ・社会福祉制度及びその実施体系について理解する。 ・社会福祉における相談援助について理解する。 ・社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ・社会福祉の動向と今後の課題について考究できる姿勢を構築する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義を中心に進めていきますが、グループディスカッション、前後左右の受講者同志による討議も実施し、幅広い視点や知識の獲得も目指していきます。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 社会福祉の理念と歴史の変遷 第2回 子ども家庭支援と社会福祉 第3回 社会福祉の制度と法体系 第4回 社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等 第5回 社会福祉の専門職 第6回 社会保障および関連制度の概要 第7回 相談援助の理論、相談援助の意義と機能 第8回 相談援助の対象と過程 第9回 相談援助の方法と技術 第10回 社会福祉における利用者保護の仕組み 第11回 少子高齢化社会における子育て支援 第12回 共生社会の実現と障害者施策 第13回 在宅福祉・地域福祉の推進 第14回 諸外国の社会福祉の動向 第15回 まとめと試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>毎授業終了時に次回の講義内容をお伝えしますので、テキストの該当箇所を事前に読むなどして次回の授業に臨んで下さい。授業後には、定期試験に向けてポイントをまとめておきましょう。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>定期試験（80%）及び課題（含リフレクションシート）（20%）で評価し、60%以上で単位を認定する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 情報機器の操作 | | 協みどり | |
|--|-----------|------|---------|
| 必修科目 | 演習 | 2 単位 | 3 年次 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 「情報機器の操作」 | | |
| 保育士養成課程の区分 | 学校独自の科目 | | |
| 担当教員の実務経験 | - | | |
| <p><授業概要> 保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的PCスキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成 (Word)、数値処理 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に広がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します</p> | | | |
| <p><授業の到達目標> ステップ1 (Word)：文章作成、編集に関する基本スキルの習得 ステップ2 (Power Point)：ポスター作成やプレゼン資料に関する基本スキルの習得 ステップ3 (Excel)：データ記録、分析に関する基本スキルの習得 ステップ4 (情報リテラシー)：ICT 利活用と情報の見極めに関する知見の理解・把握</p> | | | |
| <p><授業方法> テーマに沿った課題を PC の操作をしながら学習し成果物として提出します。</p> | | | |
| <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 PC 基本操作 Office ソフト説明 現代社会と情報 【ステップ1 (Word)】 第3回 基本機能の確認と操作 第4回 体裁・レイアウト 第5回 図表の挿入と編集① 図形の組み合わせ、配置、編集 第6回 図表の挿入と編集② 表の作成、配置、編集 第7回 さまざまな機能の活用 (グリッド線、ぶら下げ、ヘッダーとフッター、段組みなど) 第8回 課題演習Ⅰ：「園だより」の作成 【ステップ2 (Power Point)】 第9回 基本機能の確認と操作 第10回 レイアウト、配色、オブジェクトの編集 第11回 図表の作成と画像の取り込み・挿入 第12回 情報の配置と印刷 第13回 「園のお祭り」ポスター作成 第14回 課題演習Ⅱ：「遠足のしおり」の作成 第15回 まとめ 第16回 アニメーションとエフェクト 第17回 動画作成と素材の利用に関する注意点 第18回 課題演習Ⅲ「園での生活紹介 (プレゼン資料)」の作成 【ステップ3 (Excel)】 第19回 基本機能の確認と操作 第20回 基本関数の操作 (SUM、AVERAGE など) 第21回 グラフの作成 (集合縦棒から散布図まで) 第22回 Excel データの Word / Power Point 利用 第23回 データ分析・読解の基礎 (代表値の性質、ばらつき、分布など) 第24回 課題演習Ⅳ：「園児名簿」の作成 【ステップ4 (情報リテラシー)】 第25回 ICT の利活用と課題① ウェブアプリ 第26回 ICT の利活用と課題② 情報倫理とセキュリティ 第27回 情報リテラシー① 認知バイアスと情報 第28回 情報リテラシー② 情報を吟味し見極める (クリティカルシンキング) 第29回 課題演習Ⅴ：最終課題の作成 第30回 全体まとめ</p> | | | |
| <p><授業時間外学修> 配布資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。</p> | | | |
| <p><テキスト> 教科書はありません。教員が資料と課題をデータで配布します。 (受講者は各自 USB メモリなどのデータ保存用デバイスの準備を推奨します。メーカー等自由、容量は 8GB 程度で十分です。初回は不要です。説明を聞いてから準備してください。)</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料> 阿部正平ほか (2018)『保育者のためのパソコン講座』萌文書林 実教出版企画開発部 (2022)『30時間でマスター Office2021』実教出版 その他の参考書は、必要に応じて随時紹介します。</p> | | | |
| <p><成績評価> 最終成果物 (課題演習) の評価 60% 授業への参加度 40% (授業内の小課題やアンケート提出)</p> | | | |
| <p><備考> 特になし。</p> | | | |

| 人間関係 | | | 一色 里絵 | |
|--|---|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 私立認定こども園（移行前幼稚園）にて教諭として勤務 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、「人間関係」の観点から子どもの姿をとらえ、発達の過程を学ぶ。子どもが人とかかわりの中でよろこびや楽しさを味わい、怒りや葛藤を乗り越える経験を通じて、主体的で対話的な深い学びが実現できるような保育を考え実践する力を養うことを目指す。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ・子どもの人とかかわる力の発達の過程を理解し、発達に応じた援助のあり方を知る。 ・領域「人間関係」の保育実践の動向について理解し、保育を具体的に構想する方法を身につける。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>事例の中の子どもの姿から、子どもの人とかかわる力の育ちについての理解を深める。ディスカッションを通して、さまざまな視点から子どもを見つめることを学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション/領域「人間関係」について・なぜ「人間関係」なのか 第2回 子どもを取り巻く「人間関係」出会う・かかわる 第3回 保育における「人間関係」（3歳未満）安心する・やってみよう 第4回 保育における「人間関係」（3～5歳）友だち・仲間 第5回 生活の中の人とかかわり 第6回 遊びの中の人とかかわり 第7回 個と集団の育ち 第8回 集団の遊びと協同性 第9回 指導案の作成 第10回 模擬保育 第11回 模擬保育の振り返り 第12回 人とかかわりを見る視点 第13回 多様な子どもと保育 第14回 家族・地域とかかわりと今日的課題 第15回 まとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>学習内容を復習し、自分の言葉で説明できるようにしておく。課題を行う。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『子どもの姿からはじめる領域・人間関係』株式会社みらい</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>授業内課題 60% 授業内試験 40%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| 体育 | | | 渡辺 潤一 | |
|--|----------|----------------|-------|----|
| 必修科目 | 講義・実技 | 講義1単位 実技1単位 | 3年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「体育」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | |
| <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育実技（含レクリエーション指導法）及び保健体育講義。 ・幼児期における運動の意義や幼児期の運動のあり方について学ぶ。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育実技（含レクリエーション指導法）及び保健体育講義を通して自身の状況を把握し、自らが（保育者としても）健康の保持増進を図ることができるようになること。 ・スポーツを通して良好な人間関係を作るためのコミュニケーション能力の向上を養う。 ・将来保育の現場において子どもたちに対して実践できるレクリエーション財の技術を習得する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館でのスポーツ・レクリエーション実技及び教室での講義等。 | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：授業オリエンテーション及び軽スポーツの実施 第2回：幼児期における運動の意義。軽スポーツの実施 第3回：幼児期における運動のあり方。実技（バスケットボール導入） 第4回：幼児期における基本的な動き。実技（バスケットボール基本練習） 第5回：幼児期における経験しておきたい動き。実技（バスケットボールゲーム1） 第6回：子どもの応急手当。実技（バスケットボールゲーム2） 第7回：子どもの応急手当。実技（バスケットボールゲーム3） 第8回：フォークダンス及び幼児向けダンスの紹介及び習得。 第9回：幼児向けダンスの創作及び発表。 第10回：実技（バレーボール導入） 第11回：実技（バレーボール基本練習） 第12回：実技（バレーボールゲーム1） 第13回：実技（バレーボールゲーム2） 第14回：実技（バレーボールゲーム3） 第15回：レポート課題の説明及び授業のまとめ。</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の予習復習。 | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>特になし。</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>必要に応じて、適宜資料配布を行う。</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>① 授業への取り組み：40% ② 課題レポート等：30% ③ 実技試験：30%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 体育講義 | | | 小貫 凌介 | |
|---|----------|-----|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 1単位 | 1年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 「体育」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「体育」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>① 体力の変化と生涯スポーツの必要性について学習する。年を重ねることによって変化する体力について学び、健康的な生活を送る上で必要なスポーツとの関わりについて学習する。</p> <p>② 幼児教育における体育・スポーツ、幼児期の発育発達に即した体育やスポーツの在り方について、その論理的根拠を学習する。</p> <p>③ 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>① 健康な生活を送る上でスポーツを実践することは、とても効果的である。では、それが何故、必要であるのか、どの様に、実践すれば良いのかについて生理学的、心理学的および社会学的観点から学び、理解をする。</p> <p>② 幼児期における骨格形態の変化およびそれに伴う機能の変化から、それに応じた運動、スポーツについて学ぶ。特に幼児期運動指針ガイドブックを参照し、幼児期の運動の在り方について包括的に理解をする。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>教員は講義形式で実施し、学生はノートテイクを行う。また、学生が講義内容に関する質問や疑問を持つ場合、随時、教員と学生の間でディスカッションを行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 ガイダンス、授業の趣旨、概要、評価について</p> <p>第2回 身体活動について</p> <p>第3回 体力について①（体力の分類、加齢と体力の関係）</p> <p>第4回 体力について②（体力の性差、月経）</p> <p>第5回 体力トレーニングの基礎①（基本原則）</p> <p>第6回 体力トレーニングの基礎②（健康増進）</p> <p>第7回 体力トレーニングの基礎③（疲労回復）</p> <p>第8回 体力トレーニングの基礎④（栄養摂取）</p> <p>第9回 スポーツと心の関り（メンタルトレーニング）</p> <p>第10回 体育とスポーツ（体育とスポーツの違い、スポーツの概念）</p> <p>第11回 スポーツの特徴①（様々なスポーツの特徴）</p> <p>第12回 スポーツの特徴②（球技スポーツを経験する）</p> <p>第13回 スポーツの特徴③（スポーツと障害について）</p> <p>第14回 新体力テスト（体力測定の意義について）</p> <p>第15回 振り返り・まとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)を行う。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>特になし</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>特になし</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末テスト(100%)</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| 体育実技 | | | 小川 佳代子 | |
|--|--|------|--------|----|
| 必修科目 | 実技 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 体育 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「体育」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 大学などでの体育実技授業（20 年） 健康運動指導士（病院：11 年 企業や自治体：20 年） 子どもたちへの運動指導（日黒学校健康トレーナー及び支援員：14 年） | | | |
| <授業概要> 仲間とコミュニケーションを図りながらスポーツを楽しむことで、心身の調子を整える。また、スポーツを生涯楽しむことができるよう基礎技術・ルール・安全に行うための方法などを学ぶ。 | | | | |
| <授業の到達目標> 以下の知識・能力を習得することを目標とする。 ①仲間とコミュニケーションを図り、共感力を高め、スポーツを楽しむことができる。 ②さまざまなスポーツの基礎技術・ルール・審判方法を身につけ、仲間とゲームができる。 ③スポーツを安全に行うための方法がわかる。 | | | | |
| <授業方法> 対面での実技（アリーナ） | | | | |
| <授業計画> 第 1 回 ガイダンス ：授業内容の説明や注意事項、評価方法について説明する。また、この授業で特に学びたい内容や要望などを確認する。 第 2 回 レクリエーションスポーツ① ：レクリエーションゲームで身体を動かし、仲間とコミュニケーションを図る。また、運動時における水分補給の方法を学ぶ。 第 3 回 レクリエーションスポーツ② ：ボールを使ったレクリエーションゲームを楽しむ。また、簡単な身体機能チェックで自身の身体状況を認識し、改善策を考える。 第 4 回 レクリエーションスポーツ③ ：いろいろな用具を使ったレクリエーションゲームを楽しむ。また、スポーツを安全に行うためのウォーミングアップやクーリングダウンの方法を学ぶ。 第 5 回 C ボール ：ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールをキャッチする感覚を養う。 第 6 回 ポートボール ：ルールを学びゲームを楽しみながら、パス感覚を養う。 第 7 回 バスケットボール① ：ドリブル、シュートなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。 第 8 回 バスケットボール② ：ルール・審判方法を学び、皆でゲームを楽しむ。 第 9 回 バスケットボール③ ：仲間と戦術を考えながら、ゲームを楽しむ。 第 10 回 プレルボール ：ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールをつなぐ技術を養う。 第 11 回 バレーボール① ：サーブ・オーバーハンドなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。 第 12 回 バレーボール② ：ルール・審判方法を学び、皆でゲームを楽しむ。 第 13 回 バレーボール③ ：仲間と戦術を考えながら、ゲームを楽しむ。 第 14 回 ドッチボール ：さまざまなルールのドッチボールを学び、皆で楽しむ。 第 15 回 リクエストスポーツ ：授業で行ったスポーツのなかで、履修者のリクエストが多いものを行う。 | | | | |
| <授業時間外学修> 予習（取組時間の目安：5～15 分/コマ） ・授業で行うスポーツについて、情報を収集する。 復習（取組時間の目安：5～15 分/日） ・授業内で紹介するエクササイズや生活習慣等の改善を日々実践し、身体機能の向上を目指す。 | | | | |
| <テキスト> 必要に応じて、授業内で提示・配布する。 | | | | |
| <参考書・参考資料> 必要に応じて、授業内で提示・配布する。 | | | | |
| <成績評価> 受講態度及び積極性 60%、授業外で取り組み 30%、課題 10% 【受講態度及び積極性】 ・授業に臨む姿勢：遅刻、早退、服装、靴、忘れ物など。 ・授業時の様子：得て不得手に関係なく積極的に運動に取り組む様子や仲間とコミュニケーションを図りながら活動を楽しもうとする姿勢。 【授業外での取り組み】 ・良好な生活行動の実践で体調を整え、授業に参加することができたか。 【課題】 ・授業内に課すアンケートやワークシートの提出とその内容。 ※フィードバックは、授業内での講評や個別に回答を行う。 | | | | |

<備考>

- ・自身の健康状態や体調を確認して参加すること。
- ・スポーツウエア、室内用運動靴を着用すること。
 - ：スポーツウエアに関しては、体温調整がしやすいよう脱ぎ着がしやすいものを着用すること（フードが付いたトレーナーは安全面を考慮してNG）。
 - ：靴忘れは見学
- ・怪我の原因となるようなアクセサリ類（時計・ネックレス・ピアス・長い爪・ネイルチップ）や身体を締めつけるストッキングなどの着用は禁止する。
- ・水分補給用のドリンク、タオルは適時準備すること。
- ・遅刻してきた際は、必ず指示を得てから授業に参加すること（ウォーミングアップ不足などで怪我をする恐れあり）。
- ・授業中にアリーナを出入りする場合は、必ず許可を得ること（安全管理のため）。

| 特別支援教育 A | | | 齋藤 澄子 | |
|--|---|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 2 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎的理解に関する科目「特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「障害児保育」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教員 28 年、学校管理職 6 年、教育委員会指導主事 4 年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>特別な支援を必要とする幼児・児童の特性や心身の発達、生活上の困難について理解し、特別な教育的ニーズに応じる保育、指導や支援のあり方を具体的に学ぶ。また、障害のある子どもの家庭との連携のあり方を学び、保護者と共に子どもを育むことができるようにする。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>○発達障害等様々な特別な支援を必要としている幼児・児童が、保育・教育活動において達成感や自己肯定感を得、生きる力を身に付けることができるようになるための指導や支援のあり方を修得する。</p> <p>○幼児・児童の個別の教育的ニーズに対して保護者や関係機関と連携しつつ、保育園・幼稚園・認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することができる。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>テキストの内容に準じて、講義を進める。必要に応じて、課題学習を取り入れたりペア学習やグループワークを行ったりして、協働的な学習を重視しながら学びを深めていく。授業の最後にはリフレクションタイムをとり、授業の振り返りを行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方について</p> <p>第 2 回：障害とは？特別支援教育とは？</p> <p>第 3 回：障害児保育の歴史と特別支援教育</p> <p>第 4 回：障害児保育・特別支援教育の基礎基本① 発達評価</p> <p>第 5 回：障害児保育・特別支援教育の基礎基本② 対象児と支援の場</p> <p>第 6 回：障害の理解と保育① 知的障害</p> <p>第 7 回：障害の理解と保育② 肢体不自由</p> <p>第 8 回：障害の理解と保育③ 視覚・聴覚障害</p> <p>第 9 回：発達が気になる子どもの理解と保育① 概論</p> <p>第 10 回：発達が気になる子どもの理解と保育② 自閉症スペクトラム障害</p> <p>第 11 回：発達が気になる子どもの理解と保育③ 注意欠陥・多動性障害</p> <p>第 12 回：発達が気になる子どもの理解と保育④ 学習障害</p> <p>第 13 回：多様な子どもたちを支援するために 貧困や外国に繋がる子どもへの支援</p> <p>第 14 回：周りの子どもたちとの関わりや様々な連携を活用した支援の発展 学びの振り返り</p> <p>第 15 回：講義のまとめ、確認試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキスト次回の学習範囲を必ず読み、重要箇所をラインしてくること。 ・授業後のノートの整理、出された課題に取り組む。 | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(前田泰弘編著) 萌文書林 2019 年</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「周りが変われば、子どもは変わる！」(齋藤澄子著) 翔雲社 2021 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) ・保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末テスト(課題論文) 50%、各回の授業レポート 50%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 特別支援教育B | | | 齋藤 澄子 | |
|---|---|-----|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 2単位 | 1年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎的理解に関する科目「特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「障害児保育」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 小学校教員 28年、学校管理職 6年、教育委員会指導主事 4年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>特別な支援を必要とする幼児・児童の特性や心身の発達、生活上の困難について理解し、特別な教育的ニーズに応じる保育、指導や支援のあり方を具体的に学ぶ。また、障害のある子どもの家庭との連携のあり方を学び、保護者と共に子どもを育てることができるようにする。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>○発達障害等様々な特別な支援を必要としている幼児・児童が、保育・教育活動において達成感や自己肯定感を得、生きる力を身に付けることができるようになるための指導や支援のあり方を修得する。</p> <p>○幼児・児童の個別の教育的ニーズに対して保護者や関係機関と連携しつつ、保育園・幼稚園・認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することができる。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>テキストの内容に準じて、講義を進める。必要に応じて課題学習を取り入れたりペア学習やグループワークを行ったり、協働的な体験を重視して学びを深めていく。授業の最後にはリフレクションタイムをとり、授業の振り返りを行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション 特別支援教育の理念</p> <p>第2回：子ども理解に基づく計画の作成① 子どもの特性の理解</p> <p>第3回：子ども理解に基づく計画の作成② 個別支援計画</p> <p>第4回：発達をうながす環境と支援</p> <p>第5回：他者との関わりと育ちあい</p> <p>第6回：組織的・協働的な指導・支援体制</p> <p>第7回：家庭との連携① 障害認知</p> <p>第8回：家庭との連携② 保護者支援</p> <p>第9回：障害の早期発見と支援</p> <p>第10回：就学に向けての支援</p> <p>第11回：関連資源の現状と課題と支援の場のつながり</p> <p>第12回：インクルーシブ教育システムの実現に向けて</p> <p>第13回：学習の振り返り 課題レポートの作成</p> <p>第14回：ポスターセッション</p> <p>第15回：確認試験 最終講義</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキスト次回の学習範囲を必ず読み、重要個所をラインしてくること ・授業後のノートの整理、出された課題に取り組む。 | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(前田泰弘編著) 萌文書林 2019年</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「周りが変われば、子どもは変わる！」(齋藤澄子著) 翔雲社 2021年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) ・保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末テスト(課題論文)50%、各回の授業レポート50%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| | | | | |
|---|-------------------|------|-------|----|
| 日本国憲法 | | | 宮田 史彦 | |
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 日本国憲法 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「外国語、体育以外の科目」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>日本国憲法の成立とその理念について概説し、基本的人権の特性や問題点について、条文の解釈に触れながら社会生活で生じている事象や判例を通じて検証する。また、人権保障のための統治機構の機能や平和主義を基調とする安全保障について考察する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>日本国憲法を学ぶことで人権感覚を養い、他への思いやりと奉仕の精神をもって保育・幼児教育の実践にあたるとともに、社会におけるさまざまな事象に対して自分の考えをもち、他と協力して生きていく力を身につける。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 憲法と立憲主義：法体系と憲法の位置づけ、立憲主義の意義について</p> <p>第 2 回 日本国憲法の成立過程と基本原理：大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法</p> <p>第 3 回 基本的人権の原理：人権の主体と人権の諸形式</p> <p>第 4 回 幸福追求権と自己決定権：憲法第 13 条と新しい人権</p> <p>第 5 回 法の下の平等：憲法第 14 条をめぐる判例からみる課題</p> <p>第 6 回 自由権Ⅰ：思想・良心の自由，信教の自由</p> <p>第 7 回 自由権Ⅱ：自由に学び，表現する権利</p> <p>第 8 回 自由権Ⅲ：経済活動の自由</p> <p>第 9 回 社会権Ⅰ：生存権をめぐる問題</p> <p>第 10 回 社会権Ⅱ：教育を受ける権利，労働者の権利</p> <p>第 11 回 統治機構Ⅰ：国を治める仕組み（国会と選挙制度）</p> <p>第 12 回 統治機構Ⅱ：国を治める仕組み（内閣と地方自治）</p> <p>第 13 回 統治機構Ⅲ：国を治める仕組み（裁判所の役割と裁判員制度）</p> <p>第 14 回 平和主義と国を守ること：安全保障とは何か</p> <p>第 15 回 講義の振り返り，試験とまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>講義後のまとめと各回の課題についてレポート作成（調べ学修）し期限まで提出</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>・橋本勇人 編『保育と日本国憲法』（みらい社）ISBN978-4-86015-460-8</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>・期末試験：70%</p> <p>・各授業で提示する課題レポート：30%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| | | | | |
|---|-----------------------------|------|--------|----|
| 乳児保育 A | | | 井上 めぐみ | |
| 必修科目 | 講義 | 2 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「乳児保育 I」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所 8 年） 幼稚園教諭（幼稚園 2 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>この授業は次の 3 つから構成される。①現代までの乳児保育における社会的ニーズや、その意義等の理解。②乳児期の子どもの発達と成長とそれをふまえた保育者の援助について」の学び。③保育の記録や共に子どもの育ちを支える大人同士の連携についての学び。講義を通して、乳児保育の基本を理解していくことが目的である。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>① 現代社会における子育て環境の現状と課題を知り、その上で乳児保育の意義・目的と役割について理解する</p> <p>② 3 歳未満児の発達と成長、特性をふまえた保育について理解する</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義形態を中心とする</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 乳児保育の必要性 —社会的背景から考える</p> <p>第 3 回 乳児保育の歴史と現状</p> <p>第 4 回 保育所保育指針における乳児保育の内容</p> <p>第 5 回 保育所保育指針における乳児保育のポイント</p> <p>第 6 回 乳児の発達と特性①アタッチメント</p> <p>第 7 回 〃 ②身体的発達・ことばの発達</p> <p>第 8 回 〃 ③敏感期</p> <p>第 9 回 0 歳児の育ち（DVD 視聴）</p> <p>第 10 回 1 歳児の育ち（〃）</p> <p>第 11 回 2 歳児の育ち（〃）</p> <p>第 12 回 デイリープログラムと記録・評価</p> <p>第 13 回 乳児保育における連携と協働</p> <p>第 14 回 まとめ</p> <p>第 15 回 期末試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>授業前のテキストの該当部分を読んでおくこと。 レジュメの振り返りをする</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『はじめて学ぶ乳児保育』志村聡子編 同文書院</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>『保育所保育指針解説』厚生労働省 資料は適宜配布する</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末試験 8 0 % 提出物 2 0 %</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 乳児保育 B | | | 井上 めぐみ | |
|--|-----------------------------|------|--------|----|
| 必修科目 | 講義 | 1 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「乳児保育Ⅱ」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所 8 年） 幼稚園教諭（幼稚園 2 年） | | | |
| <授業概要> | | | | |
| この授業では乳児保育 A で学んだ知識を基に、乳児に対する保育の方法を、演習と講義・ディスカッションなどを通して具体的に学んでいく。 | | | | |
| <授業の到達目標> | | | | |
| ① 乳児の発育・発達のプロセスと特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する | | | | |
| ② 乳児の生活や遊び、保育の方法と環境について理解する | | | | |
| <授業方法> | | | | |
| 授業計画の前半は演習と講義を中心に行い、後半はグループディスカッションなどを通して、学生同士の意見交換を行っていく。 | | | | |
| <授業計画> | | | | |
| 第 1 回 オリエンテーション | | | | |
| 第 2 回 抱っことおんぶ | | | | |
| 第 3 回 おむつ交換とおむつはずれ | | | | |
| 第 4 回 清潔（沐浴・衣服の着脱） | | | | |
| 第 5 回 乳児保育における安全管理と衛生管理 | | | | |
| 第 6 回 調乳・授乳・洗浄 | | | | |
| 第 7 回 離乳食についての基礎知識 | | | | |
| 第 8 回 遊びと環境 | | | | |
| 第 9 回 手作りおもちゃ制作と発表 | | | | |
| 第 10 回 乳児保育における計画の実際 | | | | |
| 第 11 回 子ども同士の関わりとその援助の実際（グループディスカッション） | | | | |
| 第 12 回 保護者との連携（ペアワーク） | | | | |
| 第 13 回 まとめ | | | | |
| 第 14 回 事例検討（グループディスカッション） | | | | |
| 第 15 回 期末試験と振り返り | | | | |
| <授業時間外学修> | | | | |
| レジュメの振り返りをする | | | | |
| <テキスト> | | | | |
| 『はじめて学ぶ乳児保育』志村聡子編 同文書院 | | | | |
| <参考書・参考資料> | | | | |
| 『保育所保育指針解説』厚生労働省 資料は適宜配布する | | | | |
| <成績評価> | | | | |
| 期末試験 80% 提出物 20% | | | | |
| <備考> | | | | |
| 特になし。 | | | | |

| 発達心理学 | | | 竹内 真悟 | |
|--|--|-----|-------|----|
| 必修科目 | 講義 | 2単位 | 1年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 教育の基礎的理解に関する科目「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の対象の理解に関する科目「保育の心理学」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>子ども理解において、基礎となる「発達の視点」は必要不可欠である。</p> <p>本授業では、保育者が発達の視点から子どもの育ちや内面を理解するために必要な視点や基礎的な知識を、発達心理学の代表的な理論や研究に基づき解説していく。</p> <p>授業を通して、人が生まれ、成長発達していくことの不思議や驚きに開かれていくことを期待する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。</p> <p>2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の振り返りを次回の授業の冒頭で共有し、補足や復習を行う。 ・講義を中心に、適宜事例や映像資料を用いる。 | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 そもそも人はなぜ発達するのか</p> <p>第3回 胎児の発生と遺伝の影響</p> <p>第5回 乳幼児にとっての環境</p> <p>第6回 初期経験と脳の発達</p> <p>第7回 知覚と運動機能の発達</p> <p>第8回 言葉の発達</p> <p>第9回 思考の発達</p> <p>第10回 記憶の発達</p> <p>第11回 感情の発達</p> <p>第12回 対人関係の発達</p> <p>第13回 コミュニケーションの発達</p> <p>第14回 自己の発達</p> <p>第15回 まとめと試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事後学習（2時間）…毎回の授業の振り返りや質問をまとめ、Google Formで提出する。</p> <p>事前学習（2時間）…教科書の該当箇所を予習する。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>新 乳幼児発達心理学〔第2版〕 子どもがわかる 好きになる 石井正子・向田久美子編著 福村出版</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>毎回の振り返りと課題への取り組み(15%)、試験(85%)によって評価する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 表現 | | 北川 聖子 | | |
|--|--|-------|------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 1 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>感性と表現に関する領域「表現」についてのねらいと内容を理解するために、「身体表現」・「造形表現」・「音楽表現」をそれぞれ融合させながら、展開していく。具体的には、保育現場で活用できる教材を製作し実演したり、「季節のうた」や「行事のうた」などをアレンジし合奏したりしながら実践していく。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>感性と表現に関する領域「表現」についてのねらいと内容を理解する。そして、保育現場で活用できる教材を製作する技術や、実際に製作物を使用して身体表現をしたり、音楽表現をしたりできる表現力を修得する。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>グループワーク、プレゼンテーションなど</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容について</p> <p>第3回 「身体」と「造形」による表現活動 ①「手作り楽器」とリズム遊び</p> <p>第4回 ②「干支かるた」と遊び</p> <p>第5回 ③動物と遊びうた</p> <p>第6回 「造形」と「音楽」による表現活動 ①「音楽がとびだす絵本」の製作</p> <p>第7回 ②「音楽がとびだす絵本」の練習</p> <p>第8回 ③「音楽がとびだす絵本」の発表・実演</p> <p>第9回 「音楽」による表現活動 ①「季節のうた」のアレンジと合奏</p> <p>第10回 ②「行事のうた」のアレンジと合奏</p> <p>第11回 ③合奏発表</p> <p>第12回 オリジナル教材研究 ①考案</p> <p>第13回 ②製作</p> <p>第14回 ③発表・実演</p> <p>第15回 試験とまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>・「保育」における感性と表現に関する領域「表現」についての理解を深めるために、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の該当箇所を一読すること。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>・プリント配布</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、令和4年）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>・期末試験（60%）、製作物（25%）、リアクションペーパー（15%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>・特になし</p> | | | | |

| 保育原理 | | 鈴木 敦 | |
|--|--|------|--------|
| 必修科目 | 講義 | 単位 | 1年次 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の本質・目的に関する科目「保育原理」 | | |
| 担当教員の実務経験 | 学校法人立幼稚園教員 15年・副園長 7年、社会福祉法人立保育所副施設長 8年、大学（教員・保育士養成課程非常勤講師 20年、横浜市立小学校放課後キッズクラブ運営法人担当理事 15年、幼保連携型認定こども園園長 6年 | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育を支える理論の習得により保育実践の基礎を培い、幼稚園教諭・保育士・保育教諭に求められる人間性を育むことを目的とする。保育の原理に関する専門的知識や判断力を習得し、幼稚園・保育所・認定こども園の教諭・保育士・保育教諭という専門職の意義を理解することによって使命感や倫理観を育むことをねらいとする。</p> | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>教育や保育、そして子育てを取り巻く社会の変化を考慮しながら人格形成と発達・子どもの理解、子どもにとって望ましい教育保育のありかたについて様々な視点から理論的・実践的に深めていく。さらに現代社会に起こっている教育保育の諸問題について、問題を捉える視点と今後の課題を考察するための姿勢・意識を高めることを目的とする。</p> | | | |
| <p><授業方法></p> <p>講義を中心とする。また、担当教員が日々経験・実践している教育保育現場の実情を授業計画に基づきながら伝えていく。</p> | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 授業オリエンテーション「保育原理」について授業の概要説明 第2回 保育とは何か 第3回 日本と諸外国の保育とその歴史 第4回 保育実践について 保育実践の基本的構造について 第5回 保育の記録について 第6回 乳児の理解について 第7回 乳児保育について 第8回 環境による保育とは 第9回 あそびを通して学ぶとは何か 第10回 幼児の理解について 第11回 幼児理解と評価について 第12回 保育の現状と課題 ～幼稚園・保育所の現状～ 第13回 保育の現状と改題 ～幼保連携型認定こども園・その他の教育保育施設の現状～ 第14回 専門職としての保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）のあり方についての考察 第15回 全体のまとめ</p> | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>オフィスアワーとして授業前は講師控室、授業終了後教室内で受け付ける</p> | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』 内閣府 フレーベル館 ※その他 適宜必要な資料を授業内で配布する</p> | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>Work で学ぶ保育原理（わかば社）</p> | | | |
| <p><成績評価></p> <p>定期試験（レポート） 60%、提出物（課題提出・リアクションペーパー） 20% 授業内での貢献度（発表） 20% ※提出物は期限厳守、出席は規定通りとする</p> | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | |

| | | | | |
|--|------------|------|------|----|
| 保育実習 I (施設) | | 小林 根 | | |
| 必修科目 | 実習 | 2 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習 I」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護系施設 17 年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>児童福祉施設等での実習を通じて、養護の必要な子どもや障害児（者）と関わり、施設保育士としての確かな知識、技術を習得する。また、他の専門職との連携や生活環境の整備、地域社会における施設の役割機能について総合的に学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。 2. 観察や関りを通して養護の必要な子どもや障害児（者）の理解を深めることができる。 3. 養護の必要な子どもや障害児（者）及びその家族への支援方法について理解することができる。 4. 施設保育士の業務内容や職業倫理について理解することができる。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>本校が指定する児童福祉施設や児童相談所（一時保護所）に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。</p> | | | | |
| <p><実習計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。 (2) 施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。 2. 子ども・利用者の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録を通して理解する。 (2) 個々の状態に応じた援助や関わりを理解する。 3. 施設における子ども・利用者の生活と環境。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助の実際を学ぶ。 (2) 子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応の方法について学ぶ。 (3) 子どもの活動と環境を知る。 (4) 健康管理、安全の確保を理解する。 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用する方法を理解する。 (2) 記録に基づく省察・自己評価ができる。 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設保育士の業務内容を理解する。 (2) 職員間の役割分担や連携の方法を学ぶ。 (3) 保育士の社会的役割と職業倫理を学ぶ。 | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>2024 年度実習の手引き（聖ヶ丘教育福祉専門学校 実習指導部） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>施設評価 40% 日誌内容 50%、実習報告書 10%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>施設実習 I の単位取得のためには、施設実習指導 I の事前指導を 3 分の 2 以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導において事後指導を受けなければならない。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|--------------|-----|-------|----|
| 保育実習Ⅰ（保育所） | | | 田村 雅美 | |
| 必修科目 | 演習 | 2単位 | 2年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習Ⅰ」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所 27年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育士資格取得のため、学外の保育実習現場において実習体験を行う。 保育所における保育者の役割と、0歳から5歳児まで年齢の異なる子どもへの関わり方を学ぶ。 乳児期から幼児期の子どもと実際に関わり、子ども理解を深める。 保育所の社会的役割を学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>保育実習指導Ⅰで学んできた実践的対応や理論的枠組を理解できているか振り返る。 基本的な保育所の役割や、各実習先の概要について予習・復習して臨む。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「実習の手引き」（本学の実習参考資料） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>保育実習Ⅰ（保育所）の実施は、保育実習指導Ⅰ（保育所）の事前指導の出席要件が授業回数の3分の2以上を満たしていなければならない。 保育実習指導Ⅰ（保育所）と相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|---|-----|-------|----|
| 保育実習Ⅱ（施設） | | | 蠣崎 尚美 | |
| 選択科目 | 実習 | 2単位 | 3年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習Ⅱ」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員 14年（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>本校が指定する児童福祉施設や児童相談所（一時保護所）に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の教科目や保育実習・施設実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、支援計画の立案・実施を経験し、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>保育所や施設実習Ⅰで経験した施設以外の児童福祉施設に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の個別支援計画の立案や相談支援の実際を学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。 (2) 施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感・傾聴する態度を形成する。 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズを把握し、子ども・利用者の理解を深める。 (3) 個別支援計画の立案及び作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への相談支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化 | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>2024年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>施設評価 40% 日誌内容 50%、実習報告書 10%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>・施設実習Ⅱの単位取得のためには、施設実習Ⅰ及び施設実習指導Ⅰの単位を取得したうえで、施設実習指導Ⅱの事前指導を3分の2以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導Ⅱにおいて事後指導を受けなければならない。</p> | | | | |

| | | | | |
|---|--------------|-----|-------|----|
| 保育実習Ⅱ（保育所） | | | 田村 雅美 | |
| 必修科目 | 演習 | 2単位 | 3年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習Ⅱ」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所 27年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育所の役割や機能について、乳幼児理解と個に応じた援助について学ぶ 集団やクラス運営における援助の仕方について学ぶ 計画と環境構成について実践を交えながら理解を深める 実際の家庭・地域との連携について見て学ぶ</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の援助や関わり (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3) 関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化 | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>保育実習Ⅱのスケジュールを把握し、日々の省察を日誌にまとめて翌日の実習にいかす。 これまでの実習を省察し、自らの課題についてまとめる。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「実習の手引き」（本学の実習参考資料） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>保育実習Ⅱの実施は、保育実習指導Ⅱの事前指導の出席要件が授業回数数の3分の2以上を満たしていなければならない。 保育実習指導Ⅱと相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|------------|------|------|----|
| 保育実習事前事後指導 I (施設) | | | 小林 根 | |
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習 I」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護系施設 17 年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>保育所以外の児童福祉施設における実習を前に、施設実習の意義や目的を認識し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークや車椅子介助などの演習を取り入れ、実習に向けての事前指導を行うとともに、オリエンテーション時の提出書類の作成、日誌の書き方、実習計画書の作成など、実習に必要な書類等の作成指導を行う。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習中の体験を発表する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習の意義・目的を理解することができる。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。 3. 実習施設における子どもや障害児(者)の人権と最善の利益を考慮することができる。 4. プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができる。 5. 実習の実践・観察・記録の方法や内容について具体的に理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握(調べ学習)を行うとともに、「障害者観」や養護の必要な「子ども観」をテーマにグループワークを実施する。また、その結果をレポートにまとめ、発表の機会を持ち、実習に備える。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 施設実習とは(施設実習の意義・目的について)</p> <p>第2回 施設実習の概要と全体像と施設実習の主な流れ</p> <p>第3回 施設の種別と目的、形態と役割機能(養護系施設と障害系施設、入所系施設と通所系施設)</p> <p>第4回 施設における保育士の業務・実習の内容と課題の明確化</p> <p>第5回 施設を利用する子ども・障害児(者)の理解・子どもの人権と最善の利益の考慮</p> <p>第6回 障害を持つ子どもの介所方法(車いす操作)</p> <p>第7回 障害を持つ人の歩行介助(歩行介助・白杖体験)</p> <p>第8回 実習に際しての留意事項(プライバシーの保護と守秘義務・権利擁護)</p> <p>第9回 実習に向けての事前学習・施設実習計画書の作成と目標の立て方。</p> <p>第10回 記録(日誌)の書き方(実習における観察、記録及び評価の方法)</p> <p>第11回 施設種別ごとの日課と業務・実習の心得と施設職員との関わり</p> <p>第12回 児童施設における感染症予防とリスクマネジメント</p> <p>第13回 事前オリエンテーションと実習施設の把握</p> <p>第14回 実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導</p> <p>第15回 事後指導における実習の総括と課題の明確化・振り返りと自己評価・実習報告書作成</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習ノートを作成と提出:テキストの中で授業に関連する部分(10箇所)を事前に指定し、授業前までに感想や気づいたことを書いてもらうノートを作成する。予習ノートの進み具合を確認するため、定期的に提出と返却実施する。 ・施設実習計画書(下書き)の提出を求め、添削の上授業内にて返却し清書させる。清書したものはオリエンテーション当日に他の書類とともに施設へ持参するよう指導している。 ・本校指定の書式で実習の心構えとなる「はじまりにあったって」の提出を求め、添削の上、授業内で返却し清書させる。実習初日に提出するよう指導している。 | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>施設実習ガイド(ミネルヴァ書房)</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>2024年度実習の手引き(聖ヶ丘教育福祉専門学校実習部)</p> <p>保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>予習ノートの提出(60%)</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>施設実習指導 I において、事前指導の3分の2以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、施設実習 I の単位認定のためには施設実習指導 I の事後指導を受けなければならない。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|---------------|------|-------|----|
| 保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所） | | | 田村 雅美 | |
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習Ⅰ」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所 27 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ（保育所）を実施する上で必要な事項について学び、実習の準備をしていく。 ・保育所の役割・機能、また保育者の役割と様々な年齢の子どもへの関わり方の配慮を知る。 ・乳児期から幼児期の成長プロセスを知り、子ども理解を深めると共に、保育士等の専門職の役割や職業倫理についても理解を深める。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>調べ学習を取り入れることで実習園の特徴を事前に捉え、実習のイメージがもてるようにしていく。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>（事前指導）</p> <p>第1回 保育実習Ⅰ（保育所）の意義・目的・内容の理解と心構え</p> <p>第2回 保育所の役割、保育の計画及び評価の理解、職員間の連携と協働</p> <p>第3回 子どもの生活や遊びと保育環境／日誌の書き方①<環境図></p> <p>第4回 子どもの理解（1）乳児の発達と保育内容</p> <p>第5回 子どもの理解（2）乳児の1日の流れ</p> <p>第6回 子どもの理解（3）幼児の発達と保育内及び1日の流れ</p> <p>第7回 実習課題の立て方</p> <p>第8回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方②<時系列></p> <p>第9回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方③<エピソード></p> <p>第10回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方④<ねらいと省察・自己評価></p> <p>第11回 職業倫理等、実習に際する留意事項の確認</p> <p>第12回 事前指導のまとめと実習後も流れ</p> <p>（事後指導）</p> <p>第13回 実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価</p> <p>第14回 実習の振り返り（2）学びの共有と課題の明確化（グループワーク）</p> <p>第15回 実習の振り返り（3）本実習のまとめと今後に向けて</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>テキスト内容や「実習の手引き」（本学の実習参考資料）を繰り返し読み、実習に関する規則や内容について理解しておく。</p> <p>0歳～就学前の子どもの発達について繰り返し確認しておく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「実習の手引き」（本学の実習参考資料）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>課題・提出物（100%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および保育実習Ⅰ（保育所）の単位修得が必要となる。</p> | | | | |

| 保育実習事前事後指導Ⅱ（施設） | | | 蠣崎 尚美 | |
|--|---|------|-------|----|
| 選択科目 | 演習 | 1 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習Ⅱ」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員 14 年（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3 年 | | | |
| <p><授業概要></p> <p>施設実習Ⅰの実習を踏まえ、施設実習の意義や目的を再確認し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークを行う。また、施設実習Ⅰとは異なる施設での実習に向けて事前指導を行うとともに、模擬支援計画書の作成を行う。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習の体験を発表する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習Ⅱの意義と目的を理解し、養護の必要な子どもや障害児（者）の支援について総合的に理解できる。 2. 既習の教科目や保育実習Ⅰ（保育所・施設）の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について理解を深める。 3. 子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、支援の目標設定と計画の立案ができる。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる。 5. 家庭と地域の生活実態を理解し、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を習得する。 6. 施設実習Ⅰの経験から、施設実習Ⅱにおける自己の課題を理解できる。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握（調べ学習）を行うとともに、事例を通して支援目標の設定と支援計画の立案を行い、対人援助の具体的方法を学ぶ。支援計画書を持ち寄り、グループワークを実施し、グループとしての支援計画を立案するとともに、他職種連携や担当者会議の実際を学ぶ。また、その結果をレポートにまとめ、発表の機会を持ち、実習に備える。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 実習の総括と自己評価および課題の明確化 施設実習による総合的な学び（施設実習Ⅰでの経験を振り返る）</p> <p>第2回 施設の種別とその機能</p> <p>第3回 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（養護系施設）</p> <p>第4回 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（障害系施設）</p> <p>第5回 施設保育士の役割と支援の実践</p> <p>第6回 支援目標の設定と支援計画の立案および実践（計画と観察、記録、自己評価と改善）</p> <p>第7回 保育の知識・技術を活かした保育実践</p> <p>第8回 施設保育士の専門性と職業倫理</p> <p>第9回 日本保育士会倫理綱領の理解・保育観の形成と深まり</p> <p>第10回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</p> <p>第11回 子どもの保育と保護者支援・施設と地域社会との関わり</p> <p>第12回 実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導</p> <p>第13回 事後指導：省察 実習振り返り記入</p> <p>第14回 事後指導：グループワーク 種別ごとの振り返り</p> <p>第15回 事後指導：グループワーク 実習報告会</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ（施設）の実習日誌を見直し、施設での1日の流れや子ども・利用者の姿と支援内容の結びつきを学ぶ。 ・子ども・利用者の姿に合った支援に向けて、テキストや図書などを活用しながら、施設利用者児の興味関心に相応しい支援内容を考える。 | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>2024年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校実習部） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>課題 50% 授業態度 50%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習指導Ⅱにおいて、事前指導の3分の2以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、単位認定のためには施設実習指導Ⅱの事後指導を受けなければならない。 ・第1回目のオリエンテーションには必ず出席すること。 | | | | |

| | | | | |
|--|---------------|------|-------|----|
| 保育実習事前事後指導Ⅱ（保育所） | | | 田村 雅美 | |
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 「保育実習Ⅱ」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所 27 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について保育実習Ⅱを通して理解を深める実習の意義と目的を理解する。 2. 乳幼児の一人ひとりに応じたかかわりと援助方法と、集団やクラス運営における援助方法を明らかにすることで乳幼児理解と保育の理解について学ぶ。 3. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善と環境構成について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解するとともに、保育士としての自己の課題を明確化する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 6. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育実践力を培うと共に、保護者支援、家庭地域との連携について学ぶ。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>随時ディスカッションなどの意見交換を取り入れ、実習や今後の実践への期待や不安を他者と共有することによって保育現場での学びをより具体的にしていく。</p> <p>模擬保育を取り入れ、責任実習にむけた準備をより具体的に行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解と心構え</p> <p>第2回 実習課題の立て方と実践に向けて</p> <p>第3回 保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</p> <p>第4回 保育実習による総合的な学び（2）子どもの保育と保護者支援</p> <p>第5回 保育の実践力（1）子どもの状態に応じた適切な関わり</p> <p>第6回 保育の実践力（2）保育の知識・技術を活かした保育実践について考える</p> <p>第7回 計画と観察、記録、自己評価（1）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案の仕方</p> <p>第8回 計画と観察、記録、自己評価（2）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案</p> <p>第9回 計画と観察、記録、自己評価（3）立案した指導計画の実践（模擬保育）</p> <p>第10回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（1）保育実習Ⅰの課題から</p> <p>第11回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（2）学びを深める様々な記録形式</p> <p>第12回 保育士の専門性と職業倫理等、実習に際する留意事項の確認</p> <p>第13回 実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価</p> <p>第14回 実習の振り返り（2）学びの共有と再確認（グループワーク）</p> <p>第15回 実習の振り返り（3）課題の明確化（グループワーク）</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>保育実習Ⅰの実習日誌を見直し、保育所の1日の流れや子どもの姿と保育内容との結びつきを学ぶ。子どもの姿に合った保育の実践に向けて、テキストや保育図書などを活用しながら、年齢や興味関心に相応しい保育内容を考える。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「実習の手引き」（本学の実習参考資料）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>課題・提出物（100%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および保育実習Ⅱ（保育所）の単位修得が必要となる。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|---|------|-------|----|
| 保育内容指導法 I | | | 田村 雅美 | |
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 3 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容総論」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士（保育所 2 7 年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>1 幼児教育における育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された内容から保育の全体構造を学ぶ。</p> <p>2 幼児の発達や特性を知り主体的・対話的で深い学びに結び付く保育内容指導法の基礎を具体的な事例や実習経験から学び整理する。</p> <p>3 対象児の発達段階に適した指導計画・環境設定・保育内容を具体的に研究する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>1 幼稚園教育要領における幼児教育の基本と各領域のねらい内容を復習し、保育の全体構造を理解する。</p> <p>2 幼児の特性と発達を理解し幼児の具体的な保育内容をから、保育を想定する</p> <p>3 学びと育ちの連続性（小学校への接続）を知る。</p> <p>4 保育計画の構成を理解し具体的な保育内容・環境設定を構築してみる。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>調べ学習・グループワーク</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 授業についてのオリエンテーション・「保育内容」とは</p> <p>第 2 回 子どもを見るまなざし・子どもの主体性を尊重した保育</p> <p>第 3 回 子どもの発達・発達に応じた指導</p> <p>第 4 回 乳児・1 歳以上 3 歳未満児の保育内容指導法</p> <p>第 5 回 領域「健康」と保育内容指導法 体の発達と遊び・健康で安全な生活</p> <p>第 6 回 領域「人間関係」と保育内容指導法 子どもの発達と人との関係</p> <p>第 7 回 領域「環境」と保育内容指導法 子どもと人的・物的環境・子どもと自然環境</p> <p>第 8 回 領域「言葉」と保育内容指導法 子どもの言葉を育む環境・絵本教材研究</p> <p>第 9 回 領域「表現」と保育内容指導法 遊びの中で育つ感性・物を使った表現</p> <p>第 10 回 総合的な保育内容指導</p> <p>第 11 回 個と集団の育ち 様々な保育形態と保育</p> <p>第 12 回 子どもの姿と指導計画・保育と行事</p> <p>第 13 回 グループワーク</p> <p>第 14 回 学びの連続性「小学校への接続」をふまえた保育</p> <p>第 15 回 まとめ・筆記試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>実習での子どもの姿や保育の振り返り・保育所保育指針等の見直し</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>はじめて学ぶ「保育内容の指導法」谷村宏子編著（ミネルヴァ書房）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>保育所保育指針・幼稚園教育要領</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>定期試験（5 0 %）演習内容の振り返り・提出物（5 0 %）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 幼児と環境 | | | 岸本 圭子 | |
|---|----------------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「環境」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教員(幼稚園・20 年) | | | |
| <p><授業概要></p> <p>領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関りについての専門的事項における感性を養い、知識・技術を身につける。そのため、現代の幼児を取り巻く環境の変化を理解し、多様化した幼児の生活・遊びに対応できる保育者を目指す。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。 2) 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関りの発達を理解する。</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>プリントに加え、視覚教材や事例を通して学生自身が調べ学習をし、グループワークや体験学習などを通して、実践的に知識や技術を身につける。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 オリエンテーション(授業概要の説明) 子どもと環境について 第 2 回 理論編 子どもが生きる世界①(幼児を取り巻く環境) 第 3 回 理論編 子どもが生きる世界②(幼児期の体験) 第 4 回 理論編 子どもが生きる世界③(乳幼児期の思考・概念の発達) 第 5 回 内容編 物との関わり① (身近な物との関わりを楽しむ経験) 第 6 回 内容編 物との関わり② (道具・用具との関わりを楽しむ経験) 第 7 回 内容編 生き物との関わり① (植物に関わり親しむ経験) 第 8 回 内容編 生き物との関わり② (虫・小動物との関わりを親しむ経験) 第 9 回 内容編 自然との関わり① (季節の出来事・自然現象に関わる経験) 第 10 回 内容編 自然との関わり② (大自然に触れる経験) 第 11 回 内容編 情報との関わり① (数量・図形に関わり親しむ経験) 第 12 回 内容編 情報との関わり② (標識・文字に関わり親しむ経験) 第 13 回 内容編 情報との関わり③ (社会(情報・施設)に関わり親しむ経験) 第 14 回 幼児期の主体的な学びを育てる環境について 第 15 回 まとめ・試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)や、保育教材の準備など行う。学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>特になし</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「幼稚園教育要領解説 (平成 30 年 3 月)」文部科学省 「保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月)」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 30 年 3 月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>試験 50% 課題 30% 授業の振り返り 20%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし</p> | | | | |

| 幼児と健康 | | | 小貫 凌介 | |
|---|----------------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「健康」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>本科目では、乳幼児の基本的な生活習慣や心身の健康に関する内容、運動的活動に関する内容を中心に、心と体の調和のとれた発達について理解を深める。</p> <p>健康な生活を営むための幼稚園教諭の役割などについての実践的な内容について学ぶ。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <p>1 幼稚園指導要領に示される「健康」の領域のねらいや内容を理解する。</p> <p>2 「健康」の領域を通じて何を育てるべきか、そのためにはどのような援助が必要かについて理解し、心と体の両面の健康課題について把握する。また、安全な生活と怪我の予防に関する具体的な方法について習得する</p> | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>対面授業、講義と実技演習を複合的に行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）・幼児と健康のねらい及び内容</p> <p>第 2 回 幼児の健康 健康の定義と乳幼児期の健康の意義</p> <p>第 3 回 体の諸機能の発達と生活習慣の形成 乳幼児の体の発達的特徴</p> <p>第 4 回 体の諸機能の発達と生活習慣の形成 乳幼児の基本的な生活習慣の形成と意義</p> <p>第 5 回 安全な生活と怪我や病気の予防 幼児の安全教育・健康管理</p> <p>第 6 回 安全な生活と怪我や病気の予防 幼児期の怪我の特徴や病気の予防、安全管理</p> <p>第 7 回 幼児期の運動発達と身体活動 乳幼児期の運動発達の特徴と多様な動きを獲得することの意義</p> <p>第 8 回 幼児期の運動発達と身体活動 日常生活における幼児の動きの経験と配慮</p> <p>第 9 回 基本的動作と多様な動きの獲得</p> <p>第 10 回 幼児の運動量と体力：昔と今の比較</p> <p>第 11 回 身近な環境や遊具を用いた遊び</p> <p>第 12 回 小型遊具を用いた遊び(ボール・縄・フープ)</p> <p>第 13 回 大型遊具を用いた遊び(マット・跳び箱・平均台)</p> <p>第 14 回 全体の振り返り、まとめ</p> <p>第 15 回 期末試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。</p> <p>各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>なし</p> | | | | |
| <p><教科書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末試験(80%)、授業態度(20%)</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 幼児と言葉 | | | 甲田 美香 | |
|--|----------------------------|------|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1 単位 | 2 年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「言葉」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 幼稚園教員(幼稚園・16 年) | | | |
| <p><授業概要></p> <p>領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 ・言葉に対する感覚を豊かに実践について理解する。 ・幼児にとっての児童文化財の意義を、実践を通して理解する。 | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達過程について言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 ・言葉を豊かにする実践を幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 ・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解し、実践を通して基礎的な知識を身に付ける。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>事例や視覚教材を使用する。グループワークや模擬保育を通して、実践的に知識や技術を身につける。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第 1 回 オリエンテーション／人間と言葉</p> <p>第 2 回 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践①言葉の楽しさ・面白さに触れる</p> <p>第 3 回 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践②言葉の美しさ・豊かさに触れる</p> <p>第 4 回 子どもと劇遊び①</p> <p>第 5 回 子どもと劇遊び②</p> <p>第 6 回 子どもの言葉を育む児童文化財の意義</p> <p>第 7 回 児童文化財（おはなし）</p> <p>第 8 回 児童文化財（絵本）</p> <p>第 9 回 児童文化財（紙芝居）</p> <p>第 10 回 児童文化財（ペープサート、</p> <p>第 11 回 児童文化財（パネルシアター）</p> <p>第 12 回 児童文化財（人形劇）</p> <p>第 13 回 言葉を豊かに育む環境の構成</p> <p>第 14 回 言葉に関わる現代社会の課題（情報化社会が子どもに及ぼす影響）</p> <p>第 15 回 まとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事前課題や復習に取り組み、知識及び疑問点を整理する。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>適宜資料を配布する。</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>「幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年 3 月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>課題 60% レポート 40%</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 幼児と身体表現 | | | 小貫 凌介 | |
|---|-------------------------|-----|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1単位 | 2年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「幼児と身体表現」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>映像資料から幼児の表現について理解をし、様々な表現教材に触れながら、理論と実践を交えて学ぶ。 グループワークで協同的、探求的に学ぶ機会を設定し、実体験を振り返りながら、幼児と身体表現についての理解を深める。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びや生活における領域「表現」について説明できる ・様々な体験を通して感性を豊かにし、感じたことや考えたことを身体と言葉を用いて表現できる ・他者の思いや考えを受容・共感し、協力してより良いアイデアを生み出すことができる | | | | |
| <p><授業方法></p> <p>対面授業、講義と実技演習を複合的に行う。</p> | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）・幼児と身体表現のねらい及び内容 第2回 幼児と身体表現（1）幼児の身体表現の特徴を知る。 第3回 幼児と身体表現（2）幼児が表現する姿と発達との関係について学ぶ 第4回 表現リズム遊び（1）手遊び指遊びにおける基礎知識・技能を実践的に学ぶ 第5回 表現リズム遊び（2）わらべ歌遊びにおける基礎知識・技能を実践的に学ぶ 第6回 表現リズム遊び（3）手遊び指遊びやわらべ歌遊びから表現遊びへ発展させる 第7回 自然を諸感覚で感じる体験を通して、自然環境への興味関心を高め、感性を豊かにする。 第8回 心動かされた体験からイメージを広げ、言葉や音、動きで幼児の身体表現を理解する。 第9回 自然と出会い、表現した実体験からグループ活動を通して、表現を生成する過程について理解する。 第10回 身近な素材を使った身体表現（1）素材から広がる表現の可能性に気付く。 第11回 身近な素材を使った身体表現（2）グループで創作する活動を通して、遊びを創作する基礎力を育む。 第12回 グループワーク（1）身近な素材から動きを見つけ、動きの模索を行なう 第13回 グループワーク（2）（1）の成果をグループごとに発表する。 第14回 全体の振り返り、まとめ 第15回 期末試験</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。 各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>なし</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>期末試験(80%)、授業態度(20%)</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| 幼児と人間関係 | | | 清水かおり | |
|--|---|-----|-------|----|
| 必修科目 | 演習 | 1単位 | 2年次 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目「人間関係」 | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | 保育士・保育教諭（保育所・認定こども園5年）、幼稚園教諭（幼稚園6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年） | | | |
| <p><授業概要></p> <p>現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。 2. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 3. 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を踏まえた調べ学習をし、発表をした上で幼児をとりまく多様な人間関係について理解を深めていく。 ・グループディスカッションによって他者の意見に関心をもち、自分の考えに取り込んでいく。 | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 現代社会と幼児の人間関係</p> <p>第2回 家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの</p> <p>第3回 3歳未満児における人間関係の発達</p> <p>第4回 身近な大人との関係を基盤とした育ち</p> <p>第5回 幼児期の遊びや生活の中にある人と関わる力の育ち</p> <p>第6回 個と集団における人間関係の育ち</p> <p>第7回 乳幼児期の自立心の育ち</p> <p>第8回 自我の芽生えを基盤とした自立への道</p> <p>第9回 幼児期の協同性の育ち</p> <p>第10回 目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち</p> <p>第11回 幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち</p> <p>第12回 他者との葛藤体験をする必要性の理解と、気持ちを調整する力の育ち</p> <p>第13回 乳幼児期の人間関係の拡大</p> <p>第14回 家庭・園・地域へと拡大する生活の場と関係性</p> <p>第15回 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <p>前回の授業ノートや資料を熟読し、自分の言葉で説明できるようにしておく。</p> | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>『乳幼児と人間関係』（浅井拓久也 萌文書林）</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>授業内提出物（30%） レポート（30%） 課題発表（40%）</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |

| | | | | |
|--|-------------------|-----|------|----|
| 倫理学 | | | 劉 博昊 | |
| 必修科目 | 講義 | 2単位 | 二部1年 | 単独 |
| 教員養成課程の区分 | — | | | |
| 保育士養成課程の区分 | 教養科目「外国語、体育以外の科目」 | | | |
| 担当教員の実務経験 | — | | | |
| <p><授業概要></p> <p>本講義では、われわれの日常生活の隅々にまで浸透している多様な倫理的問題を取り上げ、その背後にある思想的・社会的・歴史的背景を考察することにより、倫理学に対する基本的理解だけでなく、価値規範が多分化している現代社会をより善く生きていく上で必要な思考様式の獲得をも目指す。</p> | | | | |
| <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理学の知に対する基礎的な理解を形成する。 ・現代社会の実態との関係から倫理を把握できる。 ・倫理的問題をめぐって判断する際の自他の立場を理解し、その根拠について自ら思考し説明できる。 | | | | |
| <p><授業方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を中心とした講義 ・グループ・ディスカッション ・ディベート | | | | |
| <p><授業計画></p> <p>第1回 倫理学とは</p> <p>第2回 近代以前の倫理を概観するⅠ——古代社会の場合</p> <p>第3回 近代以前の倫理を概観するⅡ——中世社会の場合</p> <p>第4回 近代(現代)社会における倫理のあり方について</p> <p>第5回 なぜ嘘をついてはいけないか</p> <p>第6回 「結果さえ良ければ、すべて良し」と言えるか</p> <p>第7回 法と正義を同一視して良いか</p> <p>第8回 不平等は悪か</p> <p>第9回 事実と規範は分けて考えるべきか</p> <p>第10回 究極的原理はまだありうるか——あるいは、道徳的判断それ自体は道徳的か</p> <p>第11回 無知は免罪符になりうるか</p> <p>第12回 私たちはいかにして他人を「道徳的／不道徳」と判断しているか</p> <p>第13回 倫理と社会を考えるⅠ——自我と他者の関係性</p> <p>第14回 倫理と社会を考えるⅡ——現代社会では倫理はいかに位置づけられていると考えられるか</p> <p>第15回 試験とまとめ</p> | | | | |
| <p><授業時間外学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義内容に応じた倫理学的問題に対して、自分自身の解答とその根拠をあらかじめ考えておくこと。 ・講義に出てきた論点を整理し、授業内で紹介する論文や書籍、映画などを活用して自らの理解を深化すること。 | | | | |
| <p><テキスト></p> <p>特になし。講義時に資料を配布する</p> | | | | |
| <p><参考書・参考資料></p> <p>授業内で適宜紹介する。</p> | | | | |
| <p><成績評価></p> <p>試験100%で評価する。</p> | | | | |
| <p><備考></p> <p>特になし。</p> | | | | |